

西近津遺跡群

西近津遺跡 X VI

長野県佐久市長土呂 西近津遺跡 X VI 発掘調査報告書



2023.3

佐久市教育委員会

例 言

- 1 本書は株式会社佐久平土地開発による宅地造成工事に伴う西近津遺跡群西近津遺跡XVIの発掘調査報告書である。
- 2 事業主体者 株式会社佐久平土地開発
- 3 調査主体者 佐久市教育委員会
- 4 遺跡名及び所在地 西近津遺跡群 西近津遺跡XVI (NT XVI)
長野県佐久市長土呂字森下 1792-1
- 5 調査期間及び面積 発掘調査期間：令和3年5月14日～令和3年7月26日
整理作業期間：令和3年7月27日～令和5年3月
面積：350.2㎡
- 6 調査担当者 久保 浩一郎
- 7 本書の編集・執筆は久保が行った。

凡 例

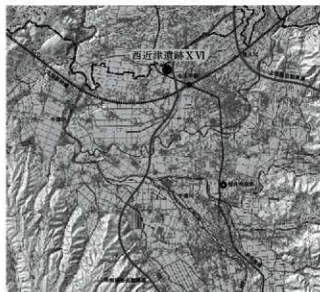
- 1 遺構の略称は次のとおりである。 H－堅穴住居址 D－土坑 M－溝址 P－ピット
- 2 遺構断面図の標高は遺構ごとに統一し、スケールバー上に値を示した。
- 3 スクリーントーンの表示は以下のとおりである。

遺構図		地山		貼床		焼土		粘土		石断面
遺物図		須恵器断面		黒色処理		灰釉		緑釉		石器使用面

- 4 遺物の実測図番号と写真番号は対応し、特に記載のないものは縮尺1/4で掲載した。
- 5 本書で示した方位は真北であり、座標値は世界測地系に準拠している。
- 6 遺構計測表及び遺物観察表における()は推定値を、〈 〉は残存値を示す。
- 7 第1図は、地理院タイルの色別標高図及び陰影起伏図、国土数値情報(行政区域データ)を基に作成した。

目次

第1章 発掘調査の経緯と経過	1
第1節 調査にいたる経緯と調査経過	1
第2節 調査組織	1
第3節 遺構・遺物の概要	1
第2章 遺跡の位置と環境	2
第1節 遺跡の環境と周辺の発掘調査	2
第2節 調査の方法	2
第3章 遺構と遺物	3



第1章 発掘調査の経緯と経過

第1節 調査にいたる経緯と調査経過

西近津遺跡群は、佐久市北部の長土呂地籍に所在する縄文時代から平安時代までの複合遺跡である。遺跡周辺では北陸新幹線佐久平駅の開業や、佐久平浅間小学校の開校を契機とした開発が盛んに行われ、近年急速に宅地化が進んでいる。

今回、遺跡内で株式会社佐久平土地開発による宅地造成工事が計画されたことにより、同社より令和2年9月24日に「土木工事等のための埋蔵文化財発掘の届出」が提出された。長野県教育委員会より令和2年10月5日に「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について」の通知を受け、令和3年3月9日、対象地2,930㎡について遺構の確認調査を実施した。結果、対象地全域に弥生時代後期から平安時代までの遺構が分布することが確認された。保護協議の結果、宅地内の道路建設部分と擁壁建設部分の一部350.2㎡について、遺構の記録保存を目的とした本調査を実施することとなった。

令和3年5月10日、株式会社佐久平土地開発と佐久市教育委員会との発掘調査業務契約を締結し、5月14日より発掘調査を開始した。令和3年7月26日現場での調査を終了し、翌27日より佐久市教育委員会文化財事務所にて記録及び出土物の整理作業を開始し、報告書作成作業を行った。令和5年3月、発掘調査報告書を刊行し、業務を終了する。

第2節 調査組織

調査主体者

佐久市教育委員会 教育長 吉岡 道明

事務局

社会教育部長 土屋 孝

文化振興課長 平林 照義（令和3年度） 中沢 栄二（令和4年度）

文化振興課企画幹 谷津 和彦（令和3年度） 井上 剛（令和4年度）

文化財調査係長 山本 秀典（令和3年度、令和4年7月～）

伊澤 信子（令和4年4月～6月）

文化財調査係 富沢 一明 上原 学 羽毛田 卓也（令和3年度） 小林 眞寿

久保 浩一郎 松下 友樹（令和4年～）

調査担当者 久保 浩一郎

調査員 赤羽根 篤 赤羽根 充江 浅沼 勝男 池野 麻丈 大矢 志穂 桐原 久人

小池 長信 清水 律子 田中ひさ子 中澤 登 仲田 恵利花 比田井 久美子

堀籠 まゆみ 堀籠 保子 森泉 文恵 森泉 美由起 柳澤 孝子 横尾 敏雄

依田 好行

第3節 遺構・遺物の概要

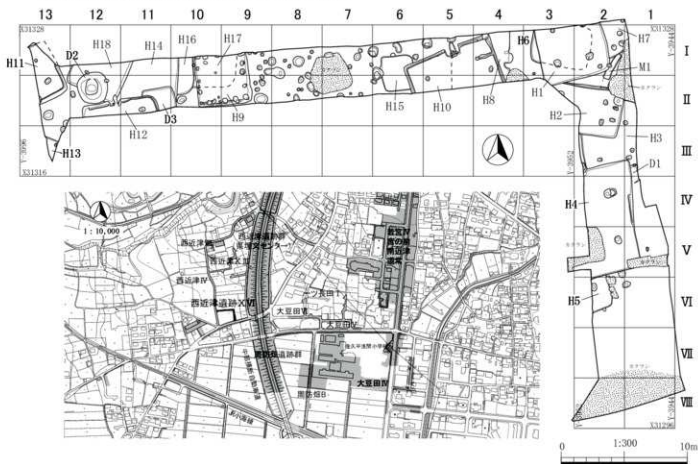
遺構 竪穴住居址18軒（弥生時代～奈良・平安時代）、土坑3基、溝址1条、ピット60基

遺物 縄文土器、弥生土器、土師器（古墳～平安）、須恵器（古墳～平安）、灰釉陶器、緑釉陶器、石器（磨製石斧・磨石・敲石）、鉄製品（剣・鏃・刀子・釘）玉類（勾玉・白玉・土製管玉）、銅製品（銅・指輪）

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

第Ⅰ節 遺跡の環境と周辺の発掘調査

本遺跡は浅間山南麓に厚く堆積した浅間軽石流を基盤とした台地上に立地し、遺構確認面の標高は約702mを測る。周辺では多数の遺跡が調査されており、人々の居住開始は縄文時代まで遡る。西近津遺跡Ⅶでは縄文時代後期の遺構が確認され、土偶や石棒が出土した。弥生時代後期には広く集落が展開し、西近津遺跡群や大豆田遺跡Ⅳ、宮の前遺跡などで多数の住居址や周溝墓などが確認されている。古墳時代には一時的に集落が縮小するようだが、奈良・平安時代には再び一帯に集落が拡大する。銅印や墨書・刻書土器などの文字資料の他、寺院の存在を示唆する瓦も出土しており、古代においても佐久地域の拠点的な地域であったと考えられる。



第1図 西近津遺跡XVI周辺の遺跡及び調査区全体図

第Ⅱ節 調査の方法

本調査区は耕作による削平・かく乱を受けており、遺構確認面は地山ローム層上面であるが、I 6～II 8 グリッドでは黒色堆積土上面での検出である。調査区内には国土地理院の平面直角座標系原点第Ⅷ系を基点とし、調査区北東のX=31364、Y=-3696を起点とする4m四方のグリッドを設定し、ローマ数字と算用数字の組合せによりグリッド名を付した。

記録写真はデジタル一眼レフカメラ (LAW・JPEG) と35mm一眼レフカメラ (カラーリバーサル) を用いて、本書は、Adobe社のIllustrator、Photoshop、Indesignを用いて編集、執筆した。

第三章 遺構と遺物

H1号住居址(第2図) I 2・3グリッドで検出され、H6・7号住居址より新しい。北側が調査区外に延びるが、東西5.2m、南北4.9m以上の方形を呈するものと考えられる。検出面から床面までの深さは0.37m、主軸はW-13° -Nを測る。カマドは検出されなかったが北側中央に位置すると考えられる。P1～P4が主柱穴と考えられ、硬質な床面が検出される。貼床は厚さ2～28cm確認された。遺物は弥生土器、土師器、須恵器、灰釉陶器等が出土した。弥生土器はH6・7号住居址からの混入と考えられ、灰釉陶器から本址は平安時代の所産と考えられる。

H2号住居址(第3・4図) II 2グリッドで検出され、H1号住居址より古く、H3号住居址より新しい。西側が調査区外に延びるため全容は不明だが、東西6.0m以上、南北3.8m、の隅丸長方形を呈するものと考えられる。検出面から床面までの深さは0.46m、主軸はW-80° -Nを測る。炉跡は検出されなかった。P1・P2・P4が主柱穴、P5・P6が入口施設と考えられる。床面は硬質で、貼床は厚さ4cm程度確認できる。遺物は縄文土器、弥生土器、土製品、鉄製品が出土した。35～37は土製の紡錘車、38は板状の鉄製品である。遺物より本址は弥生時代後期箱清水式期の所産と考えられる。

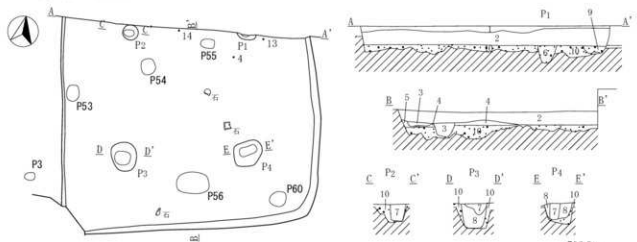
H3号住居址(第5・6図) III 2グリッドで検出され、H2・4号住居址より古い。北側をH2号住居址に、南側をH4号住居址に壊され、東側が調査区外に延びる。東西4.2m以上、南北5.2m以上、検出面から床面までの深さは0.18m、主軸はW-6° -Nを測る。P1・P2・P3・P4が主柱穴と考えられ、P1とP2の間で炉跡と考えられる焼土が検出された。床面は硬質で、貼床は厚さ8cm程度確認できる。堀方では6基のピットが検出され、P7・P8・P9は主柱穴、P5・P6は入口施設と考えられる。P2を共有し建替えられたものだろうか。遺物は弥生土器と鉄製品が出土した。18鉄鏃と考えられる。遺物より本址は弥生時代後期箱清水式期の所産と考えられる。

H4号住居址(第7・8図) IV 2・V 2グリッドで検出され、H3・5号住居址より新しい。西側が調査区外に延びるため全容は不明だが、東西3.8m以上、南北8.5mの方形を呈するものと考えられる。検出面から床面までの深さは0.58m、主軸はW-10° -Nを測る。カマドは北側に位置し、粘土と焼土が確認できる。床面は硬質で、ピット2基が検出され、主柱穴と考えられる。貼床は厚さ20cm程度確認でき、堀方では4基のピットが検出された。西側にずらして建替えが行われたようである。遺物は弥生土器、須恵器、土師器、灰釉陶器、石器、鉄製品、銅製品が出土した。混入遺物と考えられるものもあり、本址は奈良時代の所産と考えたい。48は銅製の指輪と考えられ、弥生時代後期の所産と考えられる。

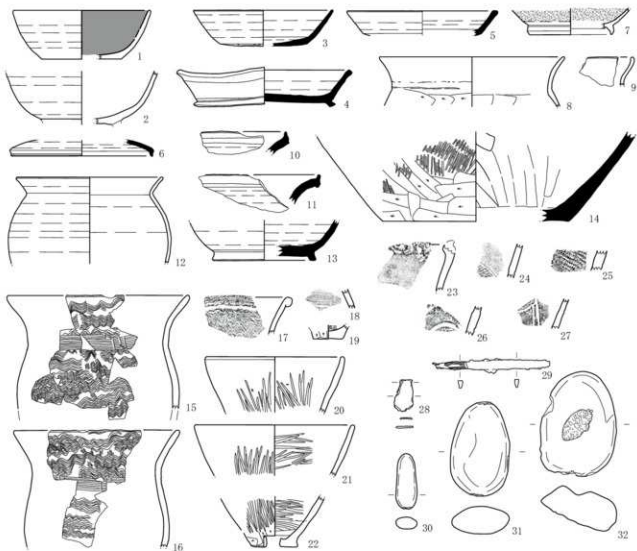
H5号住居址(第9図) VI 2グリッドで検出され、H4号住居址より古い。遺構南東部分のみの検出であるため全容は不明だが、床面が確認できるため住居址と判断した。検出面から床面までの深さは0.35m、床面は硬質で、ピット1基が検出された。貼床は厚さ25cm程度確認できる。遺物は須恵器と土師器の小片が出土している。1は土師器の甕である。本址は古墳時代後期から奈良時代の所産と考えられる。

H6号住居址(第10図) I 3グリッドで検出され、H1号住居址より古い。上部をH1号住居址に壊され、北西部分が調査区外に延びるが、東西4.5m程度、南北3.3m程度と想定される隅丸長方形の住居址である。床面は西側しか残っていないが、検出面からの深さは0.28m、主軸はW-78° -Nを測る。ピットは6基検出され、P1～P4が主柱穴、P5とP6が入口施設と考えられる。炉跡はP1とP2の間で検出され、一辺に楕円礫が埋められている。床面は硬質で、貼床は厚さ15cm程度確認できる。遺物は弥生土器が出土しており、弥生時代後期箱清水式期の所産と考えられる。

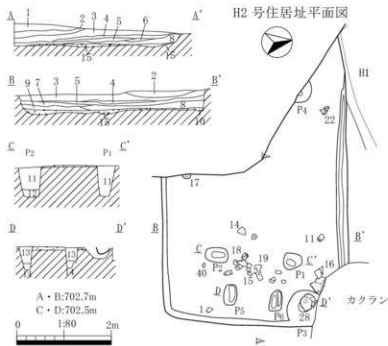
H1 号住居址平面図



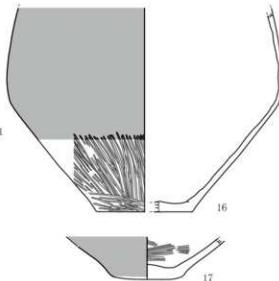
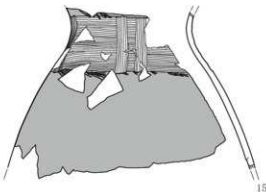
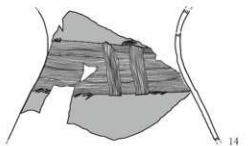
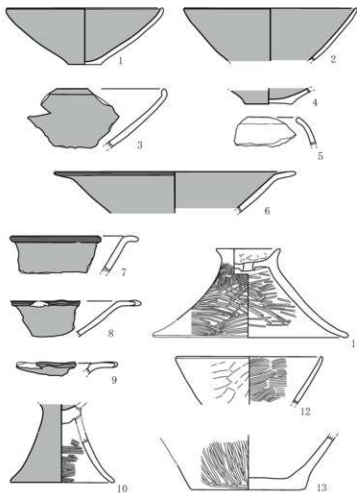
- | | |
|---------------------------------|-------------------------------------|
| 1 褐灰色土 (10YR4/1) 炭化物含む。 | 6 暗褐色土 (10YR3/3) ロームブロック多量含む。 |
| 2 灰黄褐色土 (10YR4/2) 黄褐色土ブロック含む。 | 7 灰黄褐色土 (10YR4/2) 黄褐色土ブロック少量含む。 |
| 3 褐色土 (10YR4/1) 灰黄褐色土ブロック含む。Fit | 8 にふい橙土 (7.5YR7/3) 暗褐色土ブロック含む。 |
| 4 灰黄褐色土 (10YR4/2) ロームブロック含む。 | 9 灰黄褐色土 (10YR4/2) 黒色土ブロック含む。 |
| 5 灰黄褐色土 (10YR4/2) 炭化物少量含む。 | 10 褐色土 (10YR4/1) 粘土、しまり強。ロームブロック含む。 |



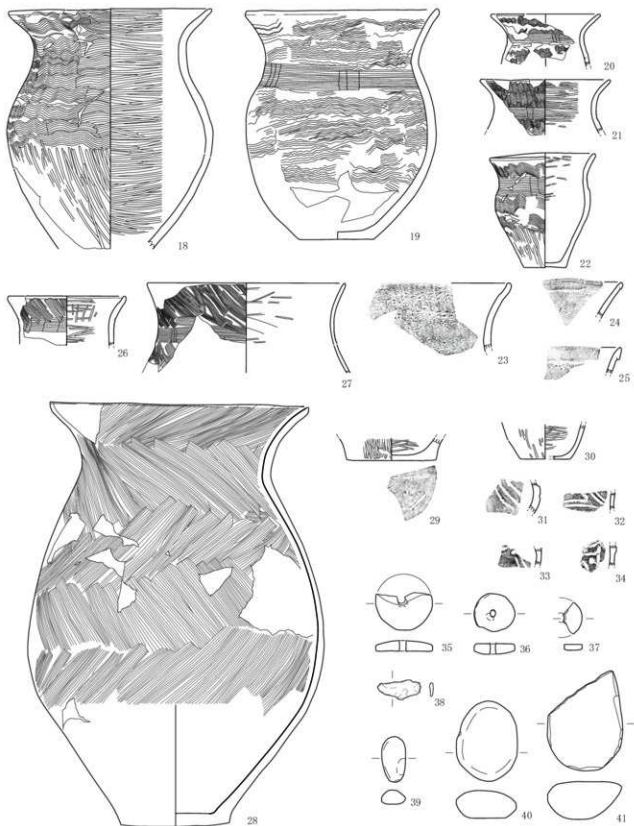
第2図 H1 遺構図・遺物図



- 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) 小礫含む。
- 2 褐色土 (10YR4/4) ローム多量含む。
- 3 暗褐色土 (10YR3/3) ϕ 1-2mm軽石多量含む。
- 4 褐色土 (10YR4/4) ϕ 1-2mm軽石多量含む。
- 5 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化物少量含む。
- 6 黒褐色土 (10YR3/2) しまりやや強。
- 7 褐色土 (10YR4/6) ロームブロック含む。
- 8 暗褐色土 (10YR3/4) しまりやや弱。
- 9 褐色土 (10YR4/6) ロームブロック少量含む。
- 10 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまりやや弱。
- 11 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまり弱。
- 12 にぶい褐色土 (7.5YR7/3) ローム多量含む。
- 13 褐灰色土 (10YR4/1) 褐色土ブロック少量含む。
- 14 褐色土 (10YR4/4) しまり弱。
- 15 褐灰色土 (10YR4/1) しまり強。
ロームブロック多量含む。

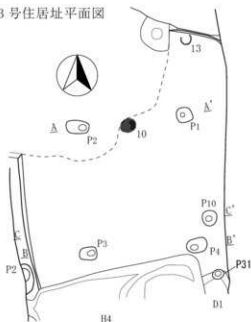


第3図 H2号住居址遺構図・遺物図1

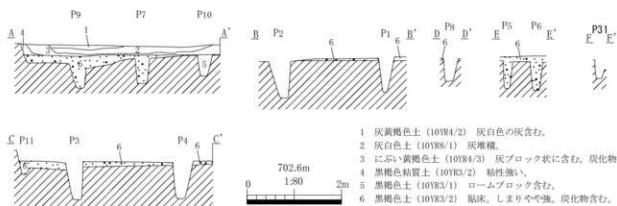
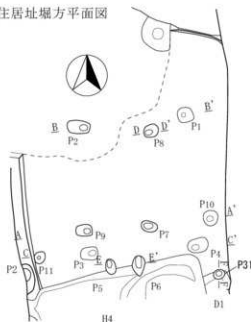


第4图 H2号住居址遺物图2

H3号住居址平面図



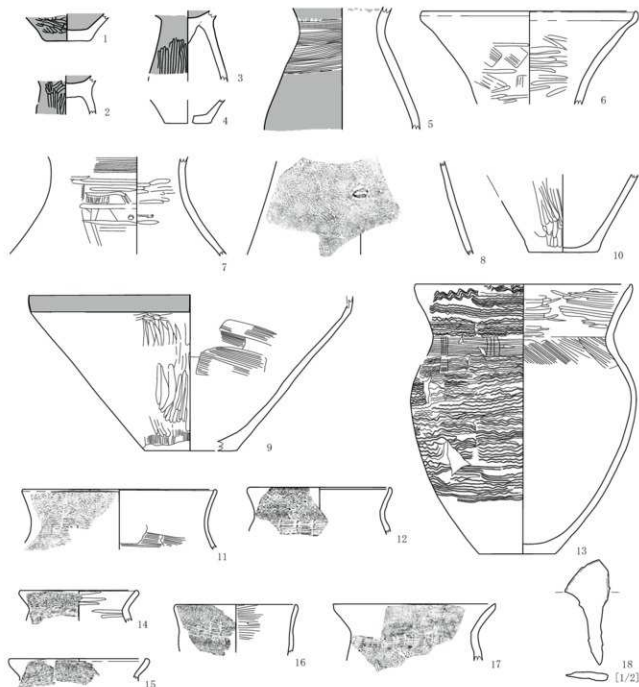
H3号住居址堀方平面図



第5図 H3号住居址遺構図

H7号住居址 (第11図) I 2 グリッドで検出され、H1号住居址より古い。西側をH1号住居址に壊され、北側と東側が調査区外に延びるため全容は不明だが、床面とピットが検出されたことから住居址と判断した。検出面から床面までの深さは0.41m、主軸はW-25° -Nを測る。床面は硬質でピットが4基検出され、P1・P2が支柱穴、P3とP4が入口施設と考えられる。貼床は厚さ5cm程度確認でき、堀方でピット1基が検出された。遺物は出土していないが、弥生時代の所産と考えられる。

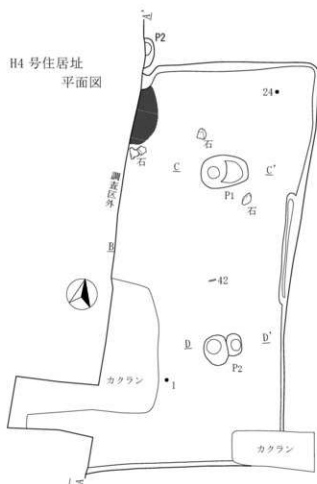
H8号住居址 (第12～14図) I 4・5グリッドで検出され、H10号住居址より新しい。南北両側が調査区外に延びるため全容は不明だが、東西4.4m、南北4.0m以上の方形を呈するものと考えられる。遺構検出面で硬質な床面が検出されたため住居側壁はほとんど残っていない。主軸はN-1° -Eを測る。カマドは東側に位置し、粘土と焼土が確認された。床面は硬質で、ピット2基が検出され、支柱穴と考えられる。貼床は厚さ15cm程度確認できる。遺物は弥生土器、土師器、須恵器、灰軸陶器、緑軸陶器、鉄製品、石製品が出土した。土師器は墨書されたものが認められる。27～29は緑軸陶器で、27は皿、28は輪花皿、29は耳皿と考えられる。遺物から本址は10世紀代の所産と考えられる。



第6図 H3号住居址遺物図

H9号住居址（第15・16図） I 9・10、II 9・10 グリッドで検出され、H17号住居址より新しい。北側が調査区外に延びるため全容は不明だが、東西4.2m、南北3.9m以上の方形を呈するものと考えられる。検出面から床面までの深さは0.54m、主軸はW-4° -Nを測る。カマドは検出されなかった。床面は硬質で、住居址内の壁に沿って15基のピットが検出され、南西部では礎が検出された。貼床は厚さ15cm程度確認できる。堀方では3基のピットが検出された。遺物は縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、灰軸陶器、石製品が出土した。遺物から本址は9世紀代の所産と考えられる。

H4号住居址
平面図



H4号住居址
堀方平面図



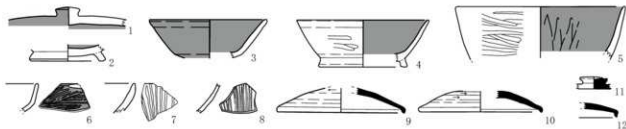
カクラン



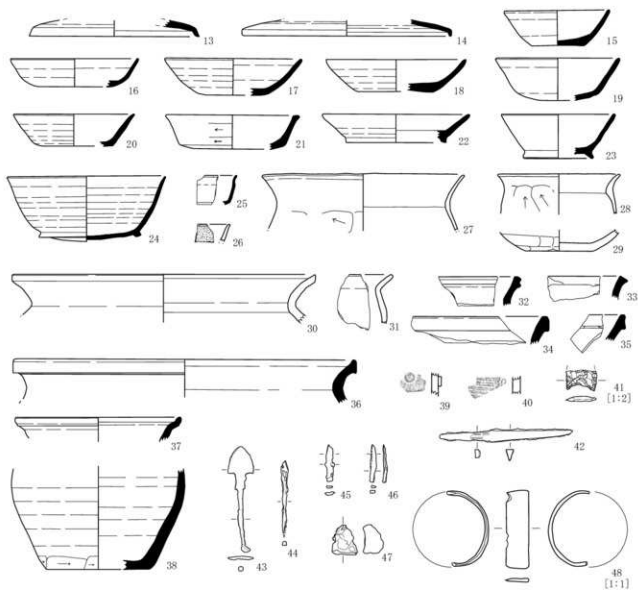
A・B:702.5m
C・D:702.0m

0 1:80 2m

- 1 褐灰色土 (10YR4/1) 黒色粘土ブロック少量含む。
- 2 灰黄褐色土 (10YR4/2)
- 3 灰黄褐色土 (10YR4/2) にぶい橙色土ブロック含む。
- 4 灰黄褐色土 (10YR4/2) ロームブロック含む。
- 5 黒色粘土 (10YR2/1) カマド崩落土。
- 6 黒褐色粘質土 (10YR3/1) 粘土ブロック含む。
- 7 褐色土 (10YR6/1) 焼土多量含む。
- 8 黒色粘土 (10YR2/1) カマド構築土。しまり強。
- 9 灰黄褐色土 (10YR4/2) 黒色粘土ブロック少量含む。
- 10 にぶい黄褐色土 (10YR5/3)
- 11 にぶい黄褐色土 (10YR5/4) ローム含む。
- 12 褐色土 (10YR5/1) ロームブロック多量含む。
- 13 黒褐色土 (10YR3/1) しまり強。貼床。
- 14 灰黄褐色土 (10YR4/2) 焼土ブロック含む。
- 15 にぶい黄褐色土 (10YR5/4) ローム含む。
- 16 浅黄褐色土 (10YR8/4) ロームブロック含む。
- 17 褐色土 (10YR5/1) ロームブロック多量含む。
- 18 にぶい橙色土 (7.5YR7/3) 褐色土ブロック多量含む。
- 19 褐色土 (10YR5/1) しまり強。貼床。ロームブロック多量含む。
- 20 灰黄褐色土 (10YR4/2) 黒褐色土ブロック含む。P2埋土。

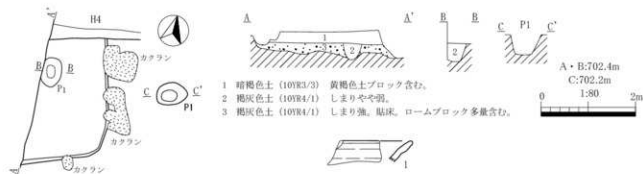


第7図 H4号住居址遺構図・遺物図 1



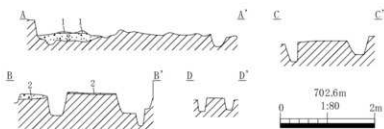
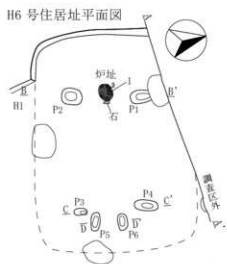
第8図 H4号住居址遺物図2

H5号住居址平面図



第9図 H5号住居址遺構図・遺物図

H6号住居址平面図

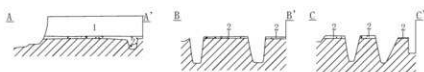
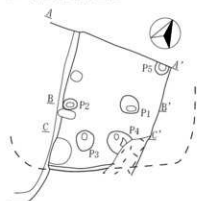


- 1 黒褐色土 (10YR3/1)
ロームブロック含む。
- 2 黒褐色土 (10YR3/1)
貼床、しまり強。ロームブロック含む。



第10図 H6号住居址遺構図・遺物図

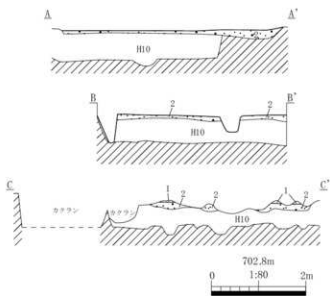
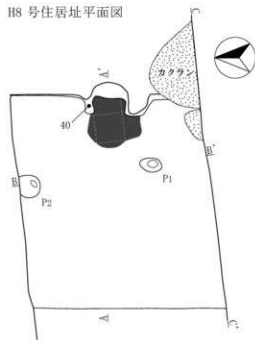
H7号住居址平面図



- 1 暗褐色土 (10YR3/3) 黄褐色土ブロック含む。
- 2 黒色土 (10YR2/1) 貼床、しまり強。ローム含む。

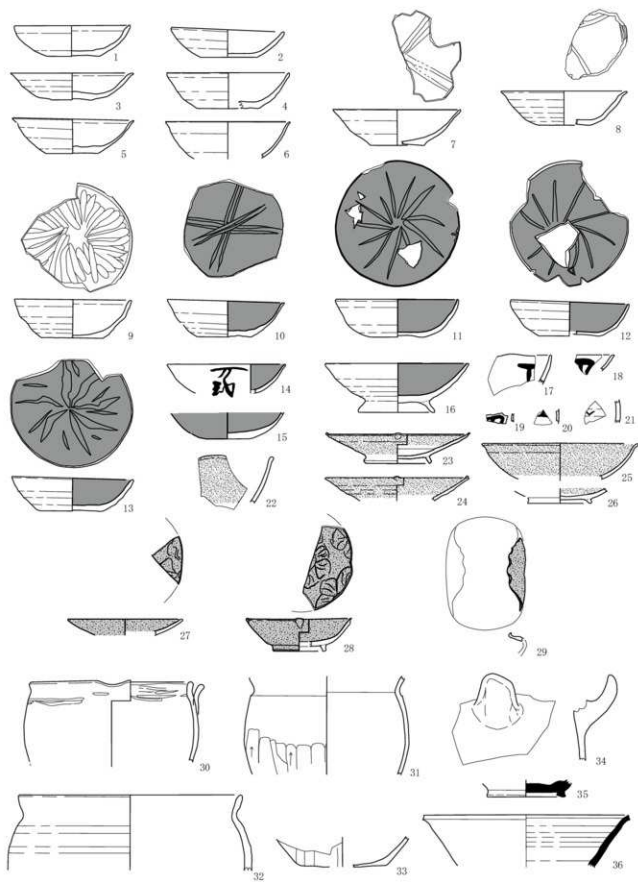
第11図 H7号住居址遺構図

H8号住居址平面図

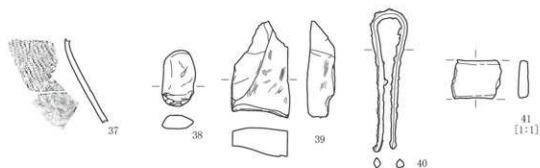


- 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) 黄褐色土ブロック含む。
- 2 褐色土 (7.5YR4/4) 貼床、しまり強。黄褐色土ブロック多量含む。

第12図 H8号住居址遺構図

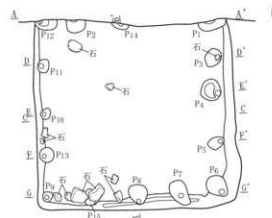


第13图 H8号住居址遗物图1

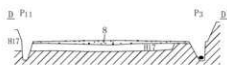
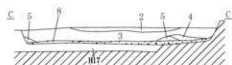
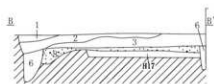
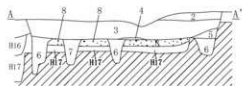
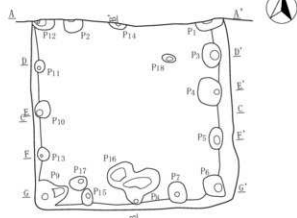


第14図 H8号住居址遺物図2

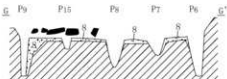
H9号住居址平面図



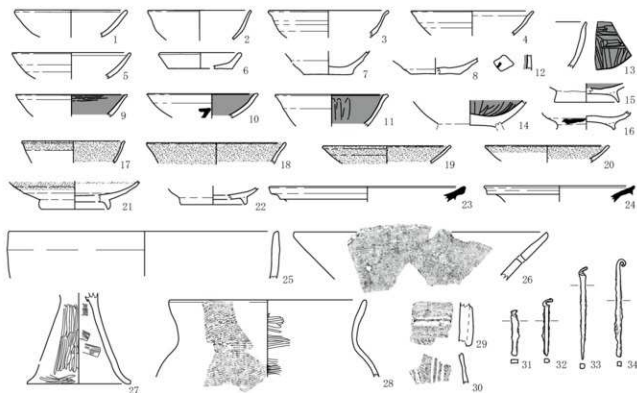
H9号住居址堀方平面図



- 1 褐灰色土 (10YR4/1) 黄褐色土ブロック含む。
- 2 褐灰色土 (10YR4/1) 黄褐色土ブロック多量含む。
- 3 褐灰色土 (10YR4/1) 黒色土ブロック含む。
- 4 褐灰色土 (10YR4/1) 橙色ロームブロック含む。
- 5 黒褐色土 (10YR3/1) 黄褐色土ブロック少量含む。
- 6 にふい橙色土 (5YR7/3) ロームブロック多量含む。
- 7 褐灰色土 (10YR4/1) ロームブロック含む。
- 8 暗褐色土 (10YR3/3) 貼床。しまり強。ロームブロック含む。



第15図 H9号住居址遺構図



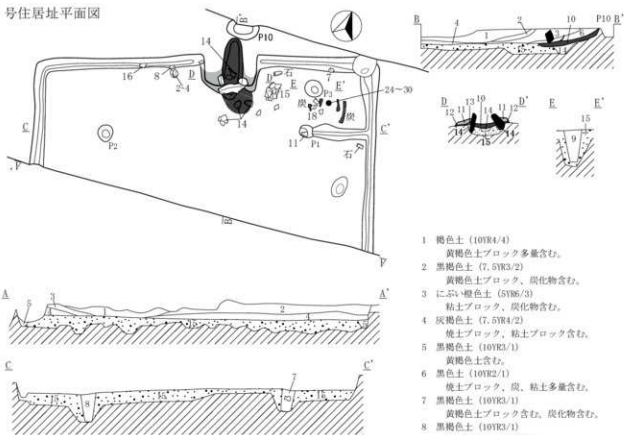
第16図 H9号住居址遺物図

H10号住居址(第17～19図) I 4～6グリッドで検出され、H8号住居址より古く、H15号住居址より新しい。南側が調査区外に延びるため全容は不明だが、東西7.2m、南北3.9m以上の方形を呈するものと考えられる。検出面から床面までの深さは0.31m、主軸はW-20°-Nを測る。カマドは北側中央に位置し、粘土と礫により構築される。住居内北東部では炭化物が多量に検出されたことから、焼失住居と考えられる。床面は硬質で、3基のビットと周溝及び間仕切り溝が検出された。P1・P2は主柱穴と考えられ、P1からは完形の土師器壺(11)が出土している。貼床は厚さ30cm程度確認できる。遺物は縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、石製品が出土した。19～30は滑石製の白玉で、19～22は北東側の炭化物集中箇所から出土している。31は土製の管玉である。本址は古墳時代後期の所産と考えられる。

H11号住居址(第20図) I 13・II 13グリッドで検出された。西側が調査区外に延びるため全容は不明だが、東西2.5m以上、南北4.5m、検出面から床面までの深さは0.66m、主軸はW-24°-Nを測る。カマドは検出されなかった。床面は硬質で、2基のビットと周溝が検出された。P1・P2は主柱穴と考えられる。貼床は厚さ20cm程度確認できる。遺物は土師器と須恵器が出土した。本址は8世紀代の所産と考えられる。

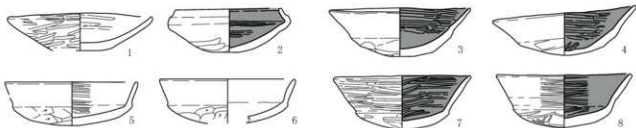
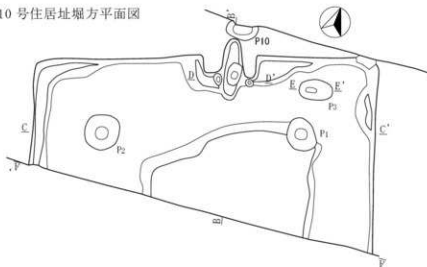
H12号住居址(第21図) II 11・12グリッドで検出され、D3号土坑より古く、H14・18号住居址より新しい。南側が調査区外に延びるため全容は不明だが、東西6.0m、南北2.0m以上、検出面から床面までの深さは0.66m、主軸はW-17°-Nを測る。カマドは北側中央に位置し、粘土と礫で構築される。床面は硬質で、1基のビットと周溝が検出された。P1は主柱穴と考えられる。貼床は厚さ30cm程度確認できる。遺物は縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器が出土した。本址は8世紀代の所産と考えられる。

H10 号住居址平面図

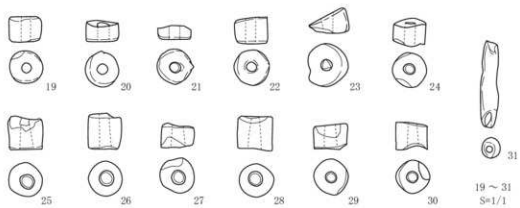
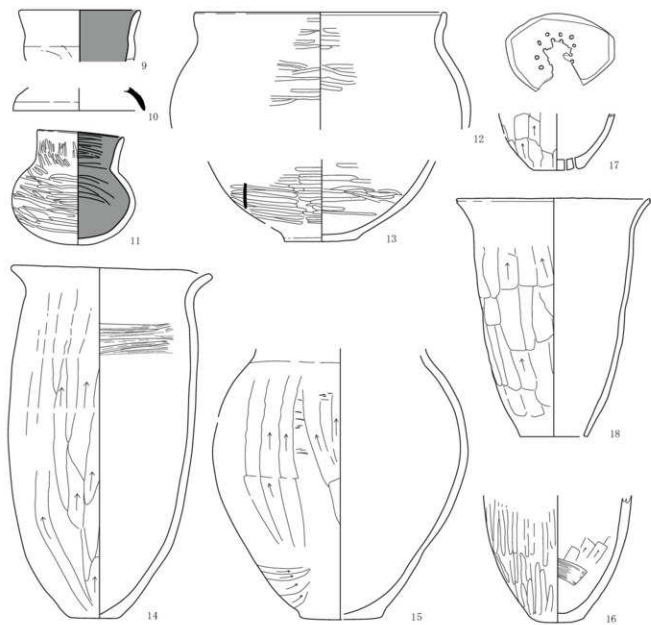


- 1 褐色土 (10YR4/4)
黄褐色土ブロック多量含む。
- 2 黒褐色土 (7.5YR3/2)
黄褐色土ブロック、炭化物含む。
- 3 にぶい褐色土 (5YR6/3)
粘土ブロック、炭化物含む。
- 4 灰褐色土 (7.5YR4/2)
焼土ブロック、粘土ブロック含む。
- 5 黒褐色土 (10YR3/1)
黄褐色土含む。
- 6 黒色土 (10YR2/1)
焼土ブロック、炭、粘土多量含む。
- 7 黒褐色土 (10YR3/1)
黄褐色土ブロック含む、炭化物含む。
- 8 黒褐色土 (10YR3/1)
黄褐色土ブロック含む。
- 9 灰黄褐色土 (10YR4/2)
橙色粘土ブロック、焼土ブロック含む。
- 10 黒色土 (10YR2/1)
粘土、炭、炭化物多量含む。
- 11 にぶい橙色粘土 (5YR6/3)
しまり強。
- 12 黒色粘土 (10YR2/1)
しまり強、炭化物多量含む。
- 13 褐色灰粘土 (10YR5/1)
しまり強。
- 14 黒褐色土 (10YR3/1)
ロームブロック多量含む。
- 15 黒褐色土 (10YR3/2)
粘床、しまり強。ロームブロック多量含む。
6層上に5mm~1cmの厚さで炭化物層あり。

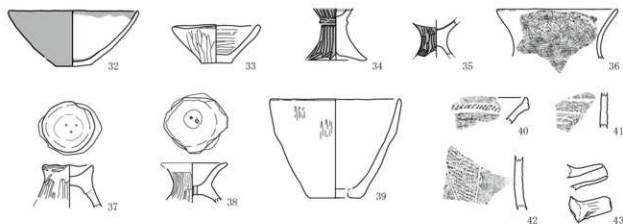
H10 号住居址堀方平面図



第 17 図 H10 号住居址遺構図・遺物図 1



第 18 图 H10 号住居址遺物图 2



第19図 H10号住居址遺物図3

H13号住居址(第20図) III 13グリッドで検出された。一部のみの検出だが、硬質な床面が確認できるため住居址と判断した。検出面から床面までの深さは0.37mで、床面でビット1基が検出された。堀方は15cm程度の深さが確認できる。遺物は弥生土器や土師器の小片が出土しているが、本址の帰属時期は不明である。

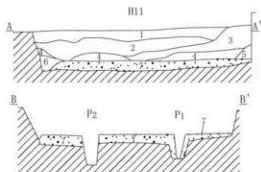
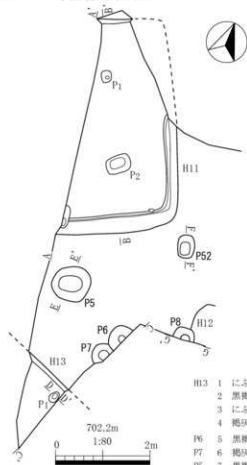
H14号住居址(第22～24図) I 11・II 11グリッドで検出され、H12・18号住居址より古く、H16・17号住居址より新しい。南側から西側を壊され、北側が調査区外に延びるため全容は不明だが、東西4.6m以上、南北4.1m以上、検出面から床面までの深さは0.60m、主軸はW-2° -Nを測る。床面は硬質で、H12号住居址堀方で確認された3基を含め、4基のビットが検出されている。P1・P2が主柱穴、P3・P4が入口施設と考えられる。遺物は弥生土器、鉄製品、勾玉が出土した。62は刀子で、混入品と考えられる。63は鉄族の破片と考えられる。64はヒスイ製の勾玉である。本址は弥生時代後期の所産と考えられる。

H15号住居址(第25図) I 6・II 6グリッドで検出され、H10号住居址より古い。東西2.5m、南北2.7mの範囲で硬質面が検出されたことから住居址と判断した。カマドや炉跡は検出されなかった。貼床は5cm程度の厚さが確認できる。主軸はW-7° -Nを測る。遺物が出土していないため帰属時期は不明である。

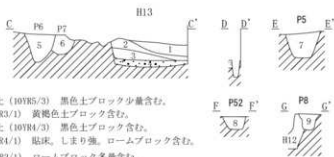
H16号住居址(第26図) I 10・II 10グリッドで検出され、H14号住居址より古く、H17号住居址より新しい。西側を壊され、北側が調査区外に延びるため全容は不明だが、検出面から床面までの深さは0.32m、主軸はW-3° -Nを測る。床面は硬質で、H14号住居址堀方で確認されたものを含め、5基のビットが検出されている。P1・P2が主柱穴、P3・P4が入口施設と考えられる。貼床は5cm程度の厚さが確認できる。遺物は縄文土器と弥生土器が出土した。本址は弥生時代後期の箱清水式期の所産と考えられる。

H17号住居址(第27図) I 9・10グリッドで検出され、H9・16号住居址より古い。全容は不明だが東西3.3m以上、南北2.5m以上、検出面から床面までの深さは0.34m、主軸はN-3° -Eを測る。床面は硬質で、8基のビットが検出された。P1・P3が主柱穴、P6・P7が入口施設と考えられる。住居内南東部分の床面及びP5内から粘土が検出されている。貼床は5cm程度の厚さが確認でき、堀方からはビット1基が検出された。遺物は弥生土器が出土しており、本址は弥生時代後期の所産と考えられる。

H11・H13号住居址平面図

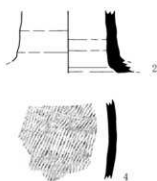
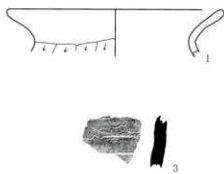


- H11 1 褐灰色土 (10YR5/1) にふい黄褐色土ブロック少量含む。
 2 褐灰色土 (10YR5/1) 黄褐色土ブロック多量含む、黒色土ブロック含む。
 3 黒褐色土 (10YR3/2) にふい黄褐色土帯状に含む。
 4 褐灰色土 (10YR6/1) 黄褐色土ブロック多量含む。
 5 灰黄褐色土 (10YR4/2) 黒褐色土含む。
 6 暗褐色土 (10YR3/3) ロームブロック少量含む。
 7 にふい橙色土 (7.5YR7/3) 黒色土ブロック含む、ロームブロック多量含む。



- H13 1 にふい黄褐色土 (10YR5/3) 黒色土ブロック少量含む。
 2 黒褐色土 (10YR3/1) 黄褐色土ブロック含む。
 3 にふい黄褐色土 (10YR4/3) 黒色土ブロック含む。
 4 褐灰色土 (10YR4/1) 貼床、しまり強、ロームブロック含む。
 P6 5 黒褐色土 (10YR3/1) ロームブロック多量含む。
 P7 6 褐灰色土 (10YR4/1) ロームブロック少量含む。
 P5 7 黒褐色土 (10YR3/2) ロームブロック含む。
 P52 8 黒褐色土 (10YR3/1)
 P8 9 褐灰色土 (7.5YR4/1) 黄褐色土ブロック含む。

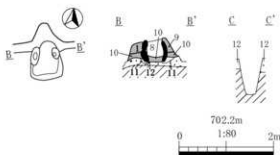
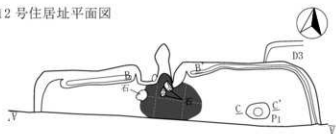
H11号住居址出土遺物



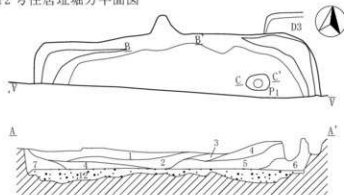
第20図 H11号住居址遺構図・遺物図 H13号住居址・P5～8・52遺構図

H18号住居址 (第28図) I 12・II 12グリッドで検出され、H12号住居址・D2号土坑より古く、H14号住居址より新しい。全容は不明だが東西4.3m、南北3.4m以上、検出面から床面までの深さは0.53m、主軸はN-25°-Eを測る。床面は硬質で、2基のピットが検出され、いずれも主柱穴と考えられる。貼床は10cm程度の厚さが確認できる。遺物は縄文土器、弥生土器、石器、鉄製品が出土した。19は磨製石族、20は鉄製品で鉄剣だろうか。本址は弥生時代後期の所産と考えられる。

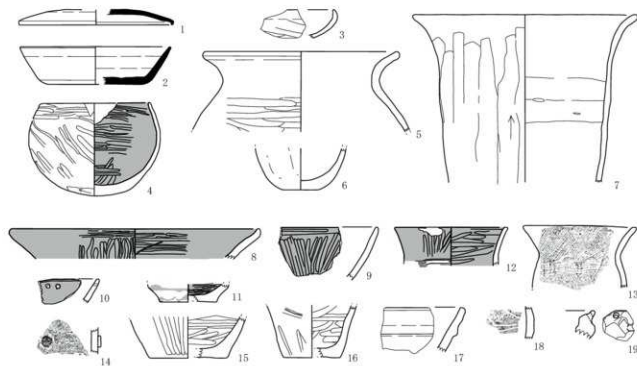
H12号住居址平面図



H12号住居址堀方平面図



- 1 黒灰色土 (10YR4/1) 黄褐色土ブロック多量含む。
- 2 黒褐色土 (10YR3/1) 黄褐色土ブロック少量含む。
- 3 灰黄褐色土 (10YR4/2) 黄褐色土ブロック含む。
- 4 灰黄褐色土 (10YR4/2) 黄褐色土ブロック多量含む。
- 5 灰黄褐色土 (10YR5/2) ロームブロック多量含む。
- 6 にぶい黄褐色土 (10YR5/3) 黒色土ブロック少量含む。
- 7 黒褐色土 (10YR3/2) 黄褐色土ブロック多量含む。
- 8 黒灰色粘質土 (7.5YR4/1) 橙色焼土ブロック含む。
- 9 灰褐色粘質土 (7.5YR5/2) 焼土少量、灰色粘土ブロック含む。
- 10 黒灰色粘質土 (7.5YR4/1) 黄褐色土ブロック含む。
- 11 黒灰色土 (10YR4/1) しまり強。
- 12 黒色土 (10YR2/1) しまり強。ロームブロック多量含む。

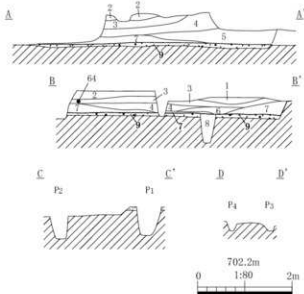
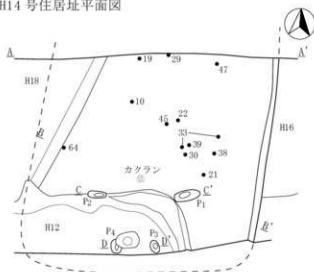


第21図 H12号住居址遺構図・遺物図

土坑 (第30図)

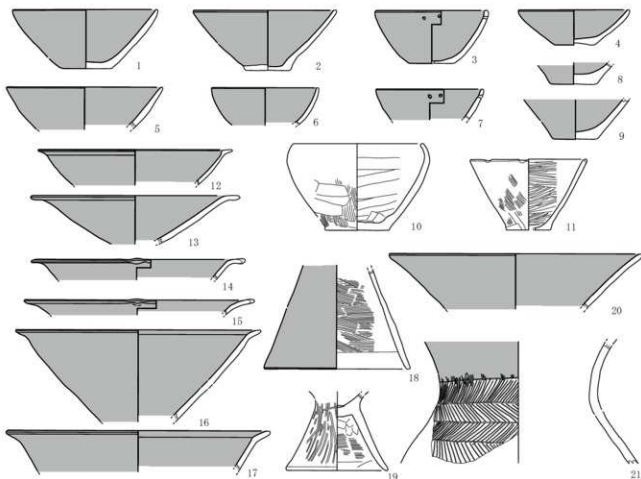
D1号土坑 III 1 グリッドで検出され、H4号住居址より古い。方形ないし長方形の土坑と考えられ、東西0.54m以上、南北1.37m、深さ0.29mを測る。土器片が出土したが、本址の帰属時期は不明である。

H14 号住居址平面図

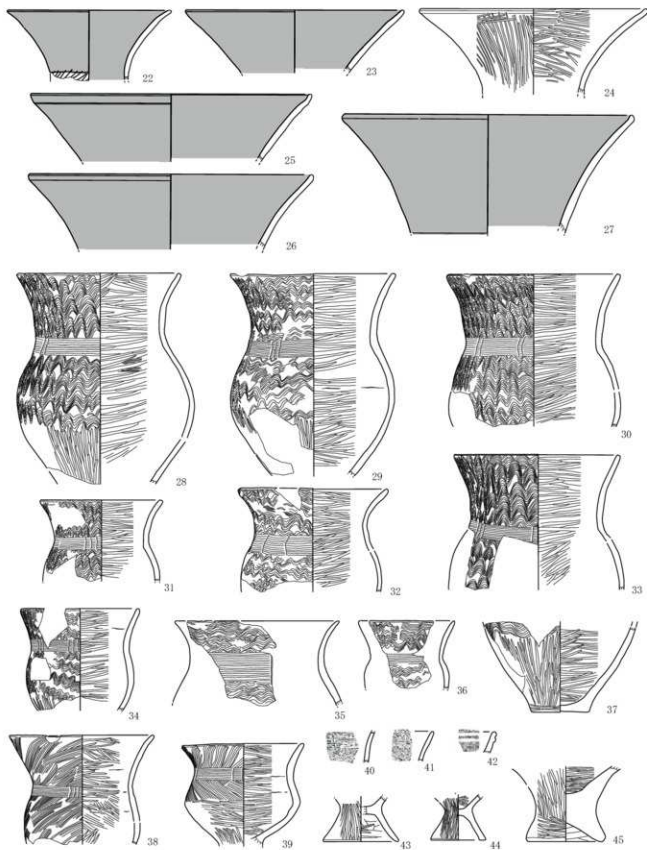


- 1 にぶい橙色土 (10YR7/3) 黒褐色土ブロック多量含む。
- 2 灰黄褐色土 (10YR4/2) 焼土ブロック少量含む。
- 3 黒褐色土 (10YR3/2) 炭化物多量含む。遺物多量含む。
- 4 灰黄褐色土 (10YR4/2) 黄褐色土ブロック含む。
- 5 褐灰色土 (10YR4/1) 炭化物少量含む。

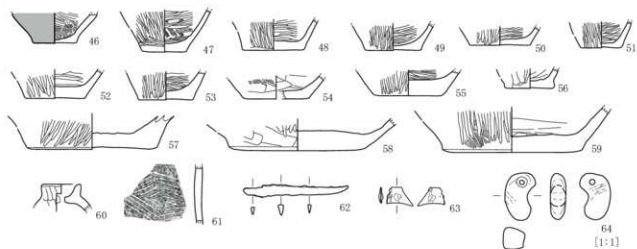
- 6 褐灰色土 (10YR4/1) 黄褐色土ブロック多量含む。
- 7 黒褐色土 (10YR3/1) 褐色土ブロック少量、炭化物多量含む。
- 8 黒褐色土 (10YR3/1) しまり弱。
- 9 灰褐色土 (7.5YR5/2) 貼床。しまり強。ロームブロック含む。



第 22 図 H14 号住居址遺構図・遺物図 1

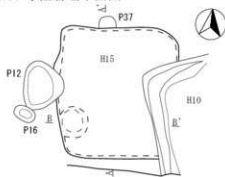


第 23 图 H14 号住居址遗物图 2



第24図 H14号住居址遺物図3

H15号住居址平面図

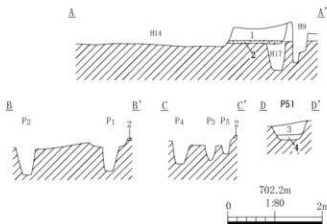


1 黒褐色土 (10YR3/1) しまりやや強。ロームブロック含む。



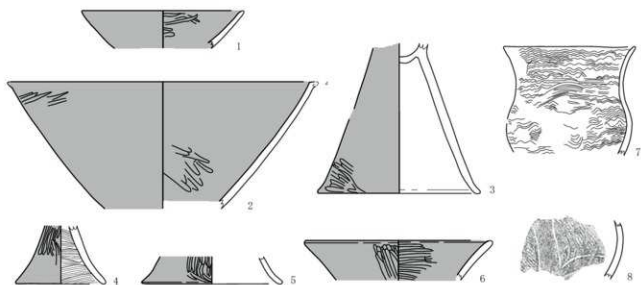
第25図 H15号住居址遺構図

H16号住居址平面図



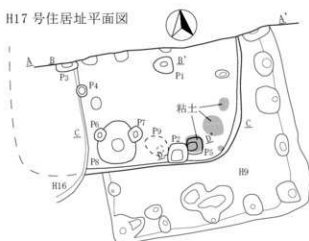
- 1 褐灰色土 (7.5YR4/1) 炭化物含む。
- 2 灰黄褐色土 (10YR4/2) 貼床。しまり強。ロームブロック含む。
- 3 黒褐色土 (10YR3/1) 褐色土ブロック少量含む。
- 4 黒褐色土 (10YR3/1) 橙色土ブロック含む。

第26図 H16号住居址遺構図

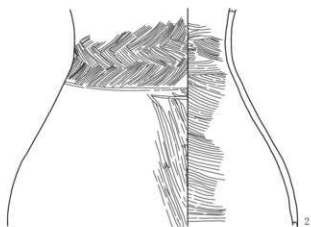
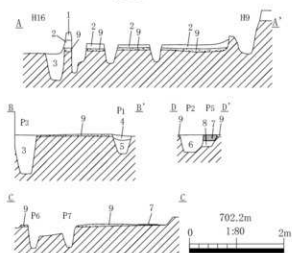


第27図 H16号住居址遺物図

H17号住居址平面図

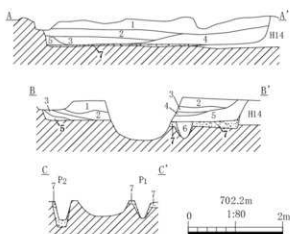
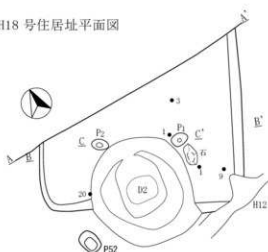


- 1 褐灰色土 (7.5YR4/1) 褐色土ブロック含む。
- 2 黒褐色土 (7.5YR3/1) ロームブロック含む。
- 3 褐灰色土 (10YR4/1) しまり弱。黄褐色土ブロック含む。
- 4 黒褐色土 (10YR3/1) 褐色土ブロック含む。
- 5 褐灰色土 (10YR4/1) にふい橙色土ブロック多量含む。
- 6 灰黄褐色土 (10YR4/2) 黄褐色土ブロック含む。
- 7 灰白色粘土 (10YR8/1)
- 8 黒褐色土 (10YR3/1) 黄褐色土ブロック含む。
- 9 黒褐色土 (7.5YR3/1) 粘床。しまり強。ロームブロック多量含む。

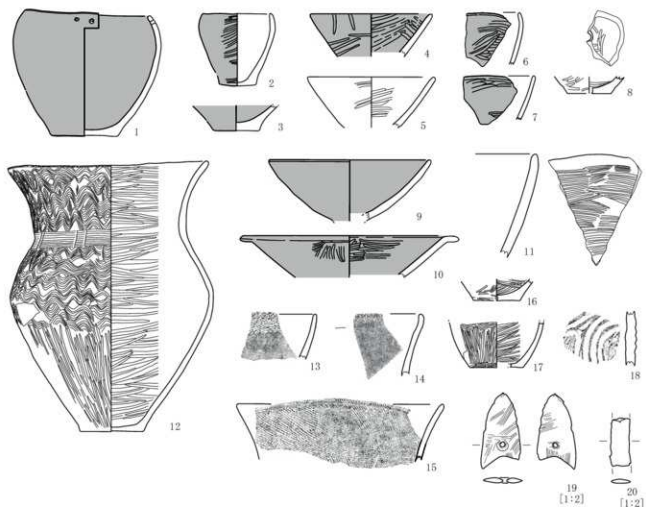


第28図 H17号住居址遺構図・遺物図

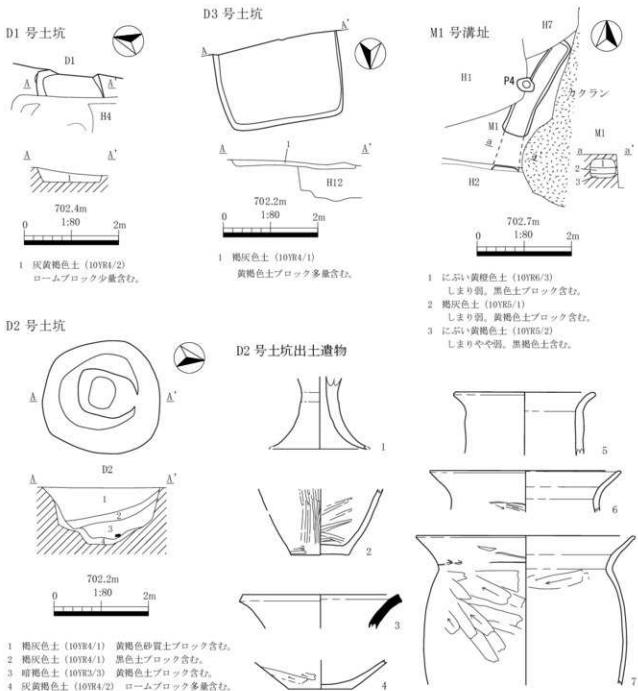
H18 号住居址平面図



- | | |
|---------------------------------------|-------------------------------------|
| 1 にぶい褐色土 (7.5YR5/3) 黄褐色土ブロック少量含む。 | 5 黒褐色土 (10YR3/1) 褐灰色土ブロック含む。 |
| 2 にぶい褐色土 (7.5YR5/3) 黄褐色土ブロック多量含む。 | 6 褐灰色土 (10YR4/1) しまり弱。 |
| 3 にぶい褐色土 (7.5YR5/3) 黄褐色土ブロック、炭化物少量含む。 | 7 灰褐色土 (10YR5/2) 粘床。しまり強。ロームブロック含む。 |
| 4 にぶい褐色土 (7.5YR5/3) 炭化物少量含む。 | |



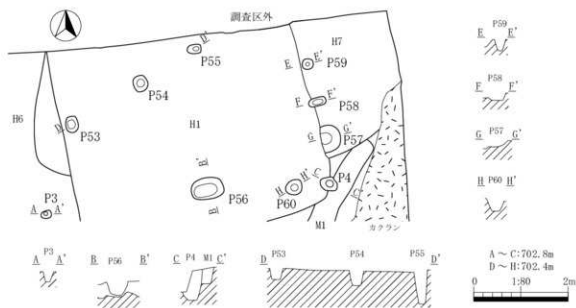
第 29 図 H18 号住居址遺構図・遺物図



第30図 土坑・溝址遺構図・遺物図

D2 号土坑 II 12 グリッドで検出され、H18 号住居址より新しい。円形で、東西 2.39m 以上、南北 2.40m、深さ 1.20m を測る。ほぼ垂直に掘り込まれ、中央のみ一段低く掘り下げられている。遺物は弥生土器、土師器などが出土しているが、埋土に混入したものと考えられる。本址は奈良時代以降の所産と考えられ、井戸址の可能性もある。

D3 号土坑 II 11 グリッドで検出され、H12 号住居址より新しい。検出範囲では方形で、東西 2.65m 以上、南北 1.78m、深さ 0.09m を測る。硬質面や堀方は確認できなかった。遺物は土器片が出土して



第31図 ビット遺構図1

いるが、本址の帰属時期は不明である。

溝址（第30図）

M1号溝址1条がI 2・II 2グリッドで検出されており、周辺の住居址より古い。H2号住居址から北方向の地下にトンネル状に延びる溝である。I 2グリッドでは地山ローム層上面が削平されているため溝状に検出され、H7号住居址南側まで延びる。遺物が出土していないため時期は不明である。

ビット（第31・32図）

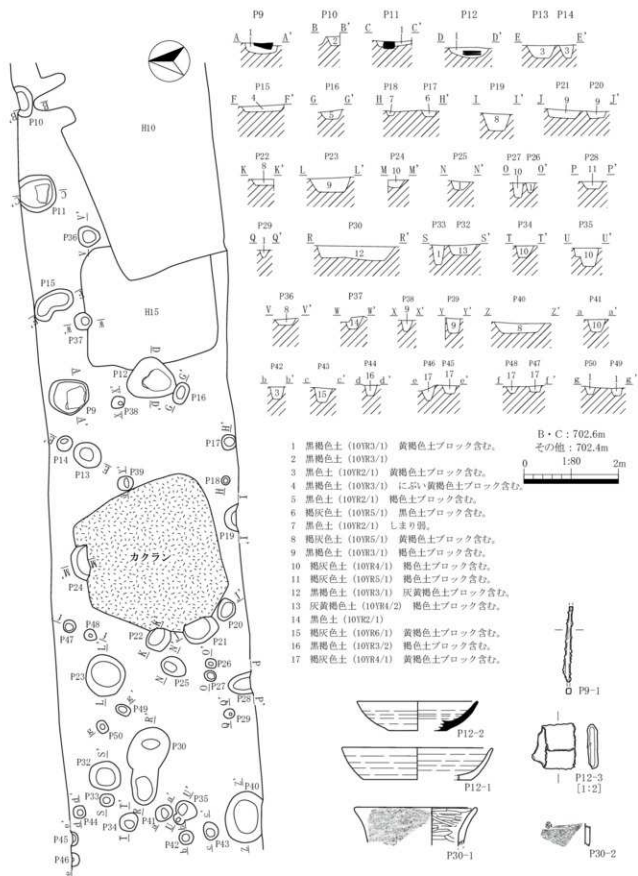
調査区全域で60基のビットが検出されているが、I 5～II 9グリッドに集中する。I 5・6グリッドに位置するP9・11・12では礎石状の扁平礫が検出されており、P10・15とともに掘立柱建物址と捉えることもできるだろうか。

ビットからの出土遺物は土器小片がほとんどである。P9からは鉄釘が出土した。P12からはからは須恵器と土師器の坏の他、環状の鉄製品が出土した。P30からは弥生土器が出土している。

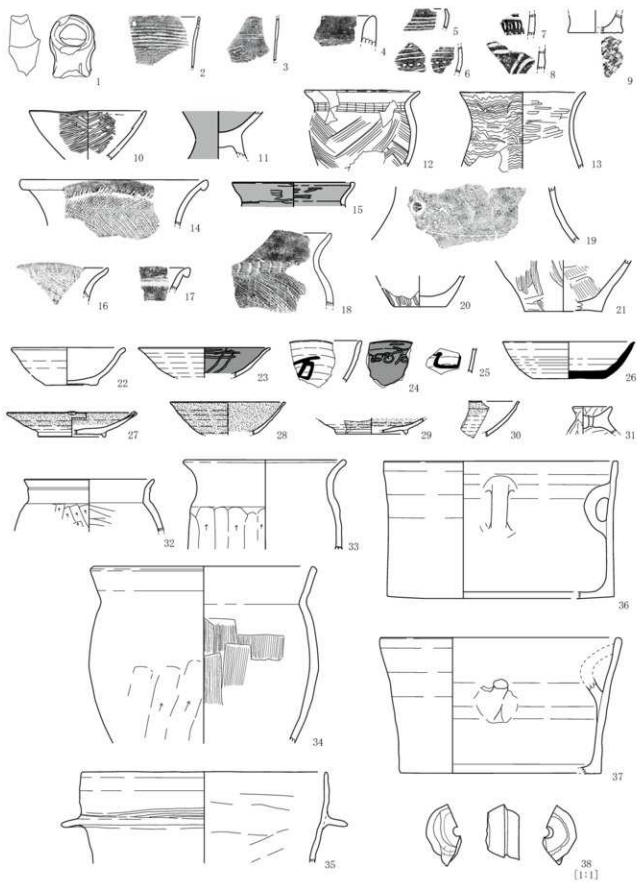
遺構外出土遺物（第33図）

試掘調査時、表土掘削及び遺構検出時に遺構外から出土した遺物である。縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、灰軸陶器、石製品が出土した。

1～9は縄文土器であり、後期堀之内式期の所産と考えられる。10～21・31は弥生土器で、10・11は高坏、12～18は甕である。12は口唇部に縄文、頸部に櫛描簾状文、体部に櫛描斜走文を施す。19は甕の頸部で、斜走文と円形浮文が施される。22～25は土師器坏で、24・25は墨書される。26は須恵器の坏、27～30は灰軸陶器である。32～34は土師器甕、35は羽釜、36・37は内耳の土鍋である。38は黒曜石製の玉の破片と考えられる。中心に穿孔され、研磨されて円形に成形されている。



第32図 ビット遺構図2・遺物図1



第 33 图 遺構外出土遺物図

H1	種別	器種	法量 (cm)			成形・調整・文様等		出土位置・備考
			口径 (長)	底径 (幅)	器高 (厚)	内面	外面	
1	土師器	坏	(14.6)	(8.4)	(5.2)	ヘラミガキ、黒色処理	ロクロナデ、ヘラケズリ	I区
2	土師器	碗	—	—	(5.7)	ヘラミガキ	ロクロナデ、高台欠損	
3	須恵器	坏	(14.8)	(9.2)	(3.8)	ロクロナデ、火押痕	ロクロナデ、底部手持ちヘラケズリ、火押痕	堀方
4	須恵器	有台坪	(18.6)	(15.0)	3.9	ロクロナデ	ロクロナデ、底部下直土底流ヘラケズリ	No4、蓋付
5	須恵器	高坏	(16.0)	—	(2.6)	ロクロナデ	ロクロナデ	I区
6	須恵器	蓋	(14.2)	—	(1.7)	ロクロナデ、火押痕	ロクロナデ、火押痕	II区
7	灰輪陶器	碗	—	(8.6)	(2.8)	ロクロナデ、灰輪	ロクロナデ、灰輪、高台貼付	II区
8	土師器	甕	(19.6)	—	(5.3)	ヘラナデ	ヘラケズリ	II区
9	土師器	甕	—	—	(3.0)	ナデ、炭化物付着	ナデ	II区、内面に炭化物
10	須恵器	甕	—	—	(2.4)	ロクロナデ	ロクロナデ	I区堀方
11	須恵器	甕	—	—	(3.1)	ロクロナデ	ロクロナデ	I区
12	土師器	壺	(15.6)	—	(9.2)	ロクロナデ	ロクロナデ	II区、II区堀方
13	須恵器	壺	—	(11.0)	(4.3)	ロクロナデ、自然釉	ロクロナデ、底部ヘラケズリ、高台貼付、自然釉	No2
14	須恵器	甕	—	(20.0)	(9.6)	ヘラナデ	タタキ、ヘラケズリ	No3
15	弥生土器	甕	(19.4)	—	(13.2)	ヘラミガキ	櫛歯状文、櫛歯縞状文	II区堀方
16	弥生土器	甕	(17.6)	—	(12.4)	ヘラミガキ	櫛歯状文、櫛歯縞状文	II区堀方
17	弥生土器	甕	—	—	(3.9)	ヘラミガキ	櫛歯状文	II区
18	弥生土器	甕	—	—	(2.0)	ハケメ	刺突文	II区
19	弥生土器	甕	—	3.2	(1.5)	ナデ	ヘラケズリ	I区
20	弥生土器	甕	(14.8)	—	(5.9)	ヘラケズリ、ヘラミガキ	ヘラケズリ、ヘラミガキ	I区堀方
21	弥生土器	甕	(17.0)	—	(5.4)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	I区堀方
22	弥生土器	甕	—	4.9	(5.4)	ヘラナデ、ヘラミガキ	ヘラケズリ、ヘラミガキ	P4、I区堀方
23	縄文土器	深鉢か	—	—	(5.0)	ミガキ		
24	縄文土器	深鉢か	—	—	(3.6)	ミガキ	沈線、縄文LR	II区堀方
25	縄文土器	深鉢か	—	—	(2.0)		縄文組	II区
26	縄文土器	深鉢か	—	—	(3.2)		沈線	II区
27	縄文土器	深鉢か	—	—	(3.2)		沈線、縄文	II区堀方
28	鉄製品	不明	(3.4)	(2.0)	(0.2)	重量3.7g 板状鉄製品		
29	鉄製品	刀子	(12.4)	1.7	0.5	重量11.1g 先端欠損		I区
30	石器	敲石	5.9	2.3	1.4	重量21.4g 両端に敲打痕		II区
31	石器	敲石	10.0	6.1	2.9	重量254.5g 縁辺部に敲打痕		P5
32	石器	凹石	11.1	8.1	4.8	重量183.9g 中央に凹み		I区
H2	種別	器種	法量 (cm)			成形・調整・文様等		出土位置・備考
			口径 (長)	底径 (幅)	器高 (厚)	内面	外面	
1	弥生土器	鉢	(16.8)	(3.4)	6.0	ヘラミガキ、赤彩	ヘラミガキ、赤彩	No14、IV区
2	弥生土器	鉢	(18.4)	—	(5.6)	ヘラミガキ、赤彩	ヘラミガキ、赤彩	I区
3	弥生土器	鉢	—	—	(6.3)	ヘラミガキ、赤彩	ヘラミガキ、赤彩	検出
4	弥生土器	鉢	—	5.0	(1.7)	ヘラミガキ、赤彩	ヘラミガキ、赤彩	III区
5	弥生土器	鉢か	—	—	(3.0)	ナデ		IV区、外面剥離
6	弥生土器	高坏	(25.6)	—	(4.4)	ヘラミガキ、赤彩	ヘラミガキ、赤彩	II区
7	弥生土器	高坏	—	—	(3.9)	ヘラミガキ、赤彩	ヘラミガキ、赤彩	検出
8	弥生土器	高坏	—	—	(3.8)	ヘラミガキ、赤彩	ヘラミガキ、赤彩、突起	IV区
9	弥生土器	高坏	—	—	(1.3)	ヘラミガキ、赤彩	ヘラミガキ、赤彩、突起	検出
10	弥生土器	高坏	—	(10.9)	(8.3)	ヘラミガキ、ハケメ、赤彩	ヘラミガキ、赤彩	III区
11	弥生土器	蓋	(20.0)	6.8	9.4	ナデ、ヘラミガキ、炭化物	ハケ、ヘラミガキ	No2 II区、内面炭化物
12	弥生土器	壺	(15.6)	—	(5.1)	ハケメ	ナデ	P1、I区
13	弥生土器	壺	—	12.0	(5.8)	ナデ	ヘラミガキ	P1
14	弥生土器	壺	—	—	(13.9)	ヘラミガキ、赤彩	櫛歯T字文、ヘラミガキ、赤彩	No16
15	弥生土器	壺	—	—	(18.2)	ヘラミガキ、赤彩	櫛歯T字文、ヘラミガキ、赤彩	No10
16	弥生土器	壺	—	(10.2)	(21.6)	剥離により不明	ヘラミガキ、赤彩	No3、I区
17	弥生土器	壺	—	7.4	(4.4)	ハケメ	ヘラミガキ、赤彩	No17
18	弥生土器	甕	21.5	—	(25.4)	ヘラミガキ	櫛歯状文、ヘラミガキ	No8・10・11・12、P4
19	弥生土器	甕	20.8	7.8	24.5	ヘラミガキ	櫛歯状文、櫛歯縞状文	No9、P2、P4、I~IV区

第1表 遺物観察表1

20	弥生土器	甕	(11.6)	—	(5.6)	ヘラミガキ	柳摺波状文、柳摺簾状文	Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ区	
21	弥生土器	甕	(13.8)	—	(5.9)	ヘラミガキ	柳摺波状文、柳摺簾状文	I区	
22	弥生土器	甕	11.3	4.4	12.2	ヘラミガキ	柳摺波状文、柳摺簾状文、ヘラミガキ	No1	
23	弥生土器	甕	—	—	(7.3)	ヘラミガキ	柳摺波状文	検出	
24	弥生土器	甕	—	—	(3.8)	ヘラミガキ	口縁部柳摺波状文、体部柳摺斜走文	検出	
25	弥生土器	甕	—	—	(2.8)	ヘラミガキ	柳摺波状文	検出	
26	弥生土器	甕	(12.6)	—	(5.3)	ヘラミガキ	柳摺斜走文、柳摺簾状文	検出	
27	弥生土器	甕	(21.0)	—	(9.5)	ナデ、ヘラミガキ	柳摺斜走文、柳摺簾状文、柳摺波状文	Ⅲ区	
28	弥生土器	甕	27.5	11.6	45.0	ヘラミガキ	柳摺斜走文	No3・4・6・7・14、P1	
29	弥生土器	甕	—	9.4	(2.4)	ヘラミガキ	ヘラミガキ、底部葉形痕	検出	
30	弥生土器	甕	—	5.2	(3.7)	ヘラミガキ	ヘラミガキ、底部ヘラケズリ	Ⅲ区	
31	縄文土器	深鉢か	—	—	(3.3)	ミガキ	沈線	Ⅱ区	
32	縄文土器	深鉢か	—	—	(1.9)		沈線	I区	
33	縄文土器	深鉢か	—	—	(1.9)		沈線、刺突文	検出	
34	縄文土器	深鉢か	—	—	(2.2)		沈線、刺突文	検出	
35	土製品	紡錘車	6.0	(4.0)	1.1	重量28.8g	表裏面ミガキ	I区	
36	土製品	紡錘車	4.3	(4.0)	1.1	重量20.8g	表裏面ナデ	Ⅱ区	
37	土製品	紡錘車	(3.3)	(1.9)	(0.6)	重量4.5g	表裏面ミガキ	I区	
38	鉄製品	刀子か	(4.6)	(2.1)	(0.4)	重量6.5g	基部欠損	I区	
39	石器	磨石	4.8	2.5	1.5	重量26.7g	端部に敲打痕	P5	
40	石器	磨石	8.5	6.3	2.9	重量237.0g	縁辺部に敲打痕	No13	
41	石器	磨石	(10.6)	(7.9)	(4.0)	重量438.5g	縁辺部に敲打痕	検出	
H3	種別	器種	法量 (cm)			成形・調整・文様等			出土位置・備考
			口径 (長)	底径 (幅)	器高 (厚)	内面	外面		
	1	弥生土器	鉢	—	4.4	(2.9)	ヘラミガキ、赤彩	ヘラミガキ、赤彩	I区
	2	弥生土器	高坏	—	—	(4.1)	赤彩	ヘラミガキ、赤彩	検出
	3	弥生土器	高坏	—	—	(6.7)	ナデ	ヘラミガキ、赤彩	I・Ⅱ区
	4	弥生土器	甌	—	(4.9)	(2.5)	ナデ	ヘラケズリ	I区
	5	弥生土器	壺	—	—	(12.9)	ナデ	ヘラケズリ、赤彩	検出
	6	弥生土器	壺	(23.1)	—	(9.9)	ヘラミガキ	ヘラケズリ、ヘラミガキ	I区
	7	弥生土器	壺	—	—	(10.3)	ヘラミガキ	ハケ、ヘラミガキ、柳摺簾状文	検出、穿孔あり
	8	弥生土器	壺	—	—	(9.9)	ナデ	柳摺斜走文、円形浮文、赤彩	I区
	9	弥生土器	壺	—	—	(16.5)	ヘラミガキ	ヘラミガキ、赤彩	I区
	10	弥生土器	甕	—	7.3	(8.4)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	No1
	11	弥生土器	甕	(20.6)	—	(6.3)	ナデ	柳摺波状文、柳摺簾状文	Ⅲ区
	12	弥生土器	甕	(15.4)	—	(4.7)	ナデ	柳摺波状文、柳摺簾状文	検出
	13	弥生土器	甕	(28.1)	8.0	28.5	ナデ、ヘラミガキ	柳摺波状文、柳摺簾状文	No2
	14	弥生土器	甕	(12.7)	—	(3.2)	ヘラミガキ	柳摺波状文、柳摺簾状文	I区
	15	弥生土器	甕	(15.0)	—	(2.4)	ナデ	柳摺波状文	I・Ⅱ区
	16	弥生土器	甕	(13.0)	—	(5.1)	ヘラミガキ	柳摺斜走文、柳摺簾状文	I区
	17	弥生土器	甕	(17.2)	—	(6.0)	ナデ、ヘラミガキ	柳摺斜走文、柳摺簾状文	検出
18	鉄製品	鉄杖	5.6	(2.4)	0.4	重量5.2g	片側欠損か	I区	
H4	種別	器種	法量 (cm)			成形・調整・文様等			出土位置・備考
			口径 (長)	底径 (幅)	器高 (厚)	内面	外面		
	1	土師器	蓋	—	—	(1.9)	ミガキ、黒色処理	ミガキ、黒色処理	No2
	2	土師器	碗	—	(8.0)	(1.7)	ミガキ、黒色処理	ナデ、底部へら切、高台屈付	Ⅳ区堀方
	3	土師器	坏	(12.8)	(5.2)	2.5	ナデ、黒色処理	ナデ、黒色処理	Ⅱ区堀方
	4	土師器	碗	(14.0)	(9.4)	5.0	ミガキ、黒色処理	ナデ、ミガキ	Ⅱ区
	5	土師器	碗	(18.0)	—	(5.6)	ミガキ、黒色処理	ミガキ	Ⅳ区
	6	土師器	坏	—	—	(3.0)	ミガキ、黒色処理	ミガキ	Ⅳ区
	7	土師器	坏	—	—	(3.2)	ナデ、暗文	ミガキ	Ⅱ区
	8	土師器	坏	—	—	(3.2)	ナデ、暗文	ミガキ	I区
	9	須恵器	蓋	(13.6)	—	(2.6)	ロクロナデ	ロクロナデ、ケズリ	Ⅱ区
	10	須恵器	蓋	(13.2)	—	(2.2)	ロクロナデ	ロクロナデ、ケズリ	I区堀方
	11	須恵器	蓋	3.4	—	(1.3)	ロクロナデ	ロクロナデ	Ⅳ区
	12	須恵器	蓋	—	—	(2.0)	ロクロナデ	ロクロナデ	P1
	13	須恵器	蓋	(18.0)	—	(1.7)	ロクロナデ	ロクロナデ	検出
14	須恵器	蓋	(22.2)	—	(1.6)	ロクロナデ	ロクロナデ	Ⅲ区	
15	須恵器	坏	11.2	5.4	3.8	ロクロナデ	ロクロナデ、底部回転糸切	I区、Ⅱ区堀方	

第2表 遺物観察表2

16	須恵器	坏	(13.6)	(10.6)	3.0	ロクロナデ	ロクロナデ、自然釉		I・II区、III区瓠方
17	須恵器	坏	(14.6)	(7.4)	3.9	ロクロナデ	ロクロナデ、底部ヘラ切		IV区
18	須恵器	坏	(14.8)	(8.2)	3.4	ロクロナデ、火押痕	ロクロナデ、底部ヘラ切		IV区
19	須恵器	坏	(13.2)	(8.2)	4.5	ロクロナデ	ロクロナデ、底部ヘラ切		II区
20	須恵器	坏	(12.8)	(8.0)	3.4	ロクロナデ	ロクロナデ、底部ヘラ切		III区
21	須恵器	坏	(14.2)	(11.2)	3.6	ロクロナデ	ロクロナデ、ケズリ		検出
22	須恵器	有台坏	(15.6)	(10.6)	3.0	ロクロナデ	ロクロナデ、高台貼付		III区
23	須恵器	有台坏	(12.0)	(7.2)	4.7	ロクロナデ	ロクロナデ、高台貼付		III区瓠方
24	須恵器	有台坏	16.8	10.8	6.9	ロクロナデ	ロクロナデ、底部ヘラケズリ、高台貼付		No3、II区瓠方
25	須恵器	坏	—	—	(3.2)	ロクロナデ	ロクロナデ		検出
26	灰軸陶器	碗	—	—	(1.9)	ロクロナデ、灰軸	ロクロナデ、灰軸		検出
27	土師器	甕	(21.4)	—	(5.9)	ナデ	ナデ、ケズリ		II区瓠方
28	土師器	甕	(13.0)	—	(4.2)	ナデ	ナデ、ケズリ		IV区
29	土師器	甕	—	12.2	(2.3)	ロクロナデ	ロクロナデ、底部ヘラケズリ		III区
30	土師器	壺	(32.2)	—	(6.1)	ロクロナデ	ロクロナデ		検出
31	土師器	甕	—	—	(5.2)	ロクロナデ	ロクロナデ		IV区
32	須恵器	甕	—	—	(3.1)	ロクロナデ	ロクロナデ		II区瓠方
33	須恵器	甕	—	—	(2.5)	ロクロナデ	ロクロナデ		II区瓠方
34	須恵器	甕	—	—	(3.0)	ロクロナデ	ロクロナデ		I区
35	須恵器	甕	—	—	(3.1)	ロクロナデ	ロクロナデ		検出、焼成不良
36	須恵器	甕	(36.4)	—	(4.6)	ロクロナデ	ロクロナデ		I区
37	須恵器	甕	(17.6)	—	(2.6)	ロクロナデ、自然釉	ロクロナデ、自然釉		II区瓠方
38	須恵器	壺	—	(11.0)	(10.7)	ロクロナデ	ロクロナデ		I・III区
39	弥生土器	甕	—	—	(2.5)	ナデ	帯細文、円形浮文		III区
40	縄文土器	深鉢か	—	—	(1.9)	ナデ	沈線文		II区
41	石器	石鏃	(1.05)	(1.65)	(0.22)	重量0.47g	黒曜石		I区
42	鉄製品	刀子	14.1	1.4	0.7	重量18.7g	基部に木質残存		No1
43	鉄製品	鉄鏃	13.3	2.7	0.5	重量15.2g			III区
44	鉄製品	釘	(7.7)	0.7	0.4	重量5.4g	先端・基部欠損		瓠方
45	鉄製品	鉄鏃	(3.8)	(1.0)	(0.4)	重量1.8g	下部欠損		II区
46	鉄製品	鉄鏃か	(4.0)	(0.7)	(0.3)	重量1.9g	基部側欠損		瓠方
47	鉄製品	不明	3.1	2.7	2.0	重量46.3g	鉄塊		IV区
48	銅製品	指輪か	2.0	(0.6)	0.1	重量1.17g	半分欠損		II区
H5	種別	器種	法量 (cm)			成形・調整・文様等			出土位置・備考
			口径 (長)	底径 (幅)	器高 (厚)	内面	外面		
1	土師器	甕	—	—	(2.3)	ロクロナデ	ロクロナデ		
H6	種別	器種	法量 (cm)			成形・調整・文様等			出土位置・備考
			口径 (長)	底径 (幅)	器高 (厚)	内面	外面		
1	弥生土器	甕	—	—	(4.9)	ヘアミガキ、赤彩	帯細波状文		H6 5 ^分
H8	種別	器種	法量 (cm)			成形・調整・文様等			出土位置・備考
			口径 (長)	底径 (幅)	器高 (厚)	内面	外面		
1	土師器	坏	13.3	5.6	3.3	ロクロナデ	ロクロナデ、底部回転糸切		No2
2	土師器	坏	12.0	6.0	3.2	ミガキ	ロクロナデ、底部ヘラケズリ		検出
3	土師器	坏	(13.0)	4.3	2.8	ロクロナデ	ロクロナデ、底部回転糸切		検出
4	土師器	坏	(13.0)	—	3.8	ロクロナデ	ロクロナデ、底部回転糸切		カマド
5	土師器	坏	12.9	5.5	3.8	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、底部ヘラ切		瓠方
6	土師器	坏	(13.2)	—	(3.9)	ロクロナデ	ロクロナデ		カマド
7	土師器	坏	(13.6)	—	3.8	ロクロナデ、暗文	ロクロナデ、底部回転糸切		カマド
8	土師器	坏	(13.4)	(5.6)	3.6	ロクロナデ、暗文	ロクロナデ		検出
9	土師器	坏	(12.4)	6.5	4.1	ロクロナデ、ミガキ	ロクロナデ、底部回転糸切		
10	土師器	坏	(12.4)	5.7	4.0	黒色処理、暗文	ロクロナデ、底部回転糸切		カマド
11	土師器	坏	13.1	5.8	4.0	黒色処理、暗文	ロクロナデ、底部回転糸切		カマド
12	土師器	坏	12.6	6.5	3.8	黒色処理、暗文	ロクロナデ、底部回転糸切		カマド
13	土師器	坏	12.9	6.7	3.6	ロクロナデ、黒色処理、暗文	ロクロナデ、底部回転糸切		検出
14	土師器	坏	(12.6)	—	(3.1)	ミガキ、黒色処理	ロクロナデ、墨書		検出
15	土師器	坏	—	4.4	(2.8)	ミガキ、黒色処理	ロクロナデ、底部回転糸切		カマド
16	土師器	碗	(15.2)	8.1	5.2	ロクロナデ、黒色処理	ロクロナデ		カマド

第3表 遺物観察表3

17	土師器	環	—	—	(3.1)	ロクロナデ	ロクロナデ、墨書		
18	土師器	環	—	—	(1.7)	ミガキ、黒色処理	ロクロナデ、墨書		検出
19	土師器	環	—	—	(0.9)	ナデ	ナデ、墨書		カマド
20	土師器	環	—	—	(1.4)	ナデ	ナデ、墨書		カマド
21	土師器	環	—	—	(2.5)	ロクロナデ、黒色処理	墨書カ		カマド
22	灰軸陶器	碗	—	—	(5.2)	ロクロナデ、灰軸	ロクロナデ、灰軸		
23	灰軸陶器	輪花皿	(15.3)	6.7	3.2	ロクロナデ、灰軸	ロクロナデ、灰軸、高台貼付		段皿、カマド
24	灰軸陶器	輪花皿	(15.2)	—	(2.5)	ロクロナデ、灰軸	ロクロナデ、灰軸		段皿、検出
25	灰軸陶器	碗	(16.6)	—	(3.8)	ロクロナデ、灰軸	ロクロナデ、灰軸		カマド
26	灰軸陶器	皿	—	6.7	(1.6)	ロクロナデ、灰軸	ロクロナデ、灰軸、高台貼付		検出
27	緑軸陶器	皿	(12.2)	—	(1.7)	緑軸、花文	緑軸		
28	緑軸陶器	輪花皿	(11.3)	(5.8)	3.5	緑軸、花文	緑軸		
29	緑軸陶器	耳皿	—	—	(0.9)	緑軸	緑軸		検出
30	土師器	片口鉢	(17.4)	—	(8.5)	ナデ、ミガキ	ナデ、ケズリ、ミガキ		カマド、壺方
31	土師器	甕	—	—	(8.8)	ロクロナデ	ロクロナデ、ケズリ		カマド
32	土師器	甕	(23.7)	—	(8.0)	ハケメ	ナデ		
33	土師器	鉢か	—	(9.4)	(3.2)	ミガキ	ケズリ		カマド
34	土師器	甕	—	—	(9.1)	ナデ、ミガキ	ケズリ、ミガキ		壺方
35	須恵器	壺	—	8.2	(1.8)	ロクロナデ、自然軸	ロクロナデ、高台貼付		壺方
36	須恵器	甕	(44.0)	—	(11.2)	ロクロナデ	ロクロナデ		壺方
37	弥生土器	壺	—	—	(9.1)	ナデ	縄文丸、横位沈線		検出
38	石器	巖石か	5.9	3.5	1.5	重量43.0g 縁辺部に割痕			壺方
39	石器	礫石	(10.2)	(6.0)	(2.7)	重量167.2g 表面・右側面に割痕			
40	鉄製品		15.2	3.9	1.1	重量48.4g			No1
41	銅製品	銅剣	(1.2)	1.0	0.2	重量1.46g 破片			検出
H9	種別	器種	法量 (cm)			成形・調整・文様等		出土位置・備考	
			口径 (長)	底径 (幅)	器高 (厚)	内面	外面		
1	土師器	環	(12.0)	—	(2.9)	ロクロナデ	ロクロナデ		Ⅳ区
2	土師器	環	(11.0)	—	(3.2)	ロクロナデ	ロクロナデ		Ⅲ区
3	土師器	環	(12.3)	—	(2.9)	ロクロナデ	ロクロナデ		Ⅱ区
4	土師器	環	(13.0)	—	(2.6)	ロクロナデ	ロクロナデ		Ⅲ区
5	土師器	環	(12.1)	—	(2.8)	ロクロナデ	ロクロナデ		Ⅲ区
6	土師器	皿	(8.7)	(6.8)	(1.7)	ナデ	ナデ、底部ヘラケズリ		Ⅰ区
7	土師器	環	—	5.2	(2.5)	ロクロナデ	ロクロナデ、底部回転糸切		Ⅲ区
8	土師器	環	—	(5.2)	(1.7)	ロクロナデ	ロクロナデ、底部回転糸切		Ⅰ区
9	土師器	環	(11.8)	—	(2.3)	ミガキ、黒色処理	ロクロナデ		Ⅱ・Ⅳ区
10	土師器	環	(11.8)	—	(2.6)	ミガキ、黒色処理	ロクロナデ、墨書		Ⅰ区
11	土師器	環	(12.0)	—	(3.4)	ミガキ、黒色処理	ロクロナデ		Ⅰ区
12	土師器	環	—	—	(1.6)	ロクロナデ、黒色処理	ロクロナデ、墨書		検出
13	土師器	環	—	—	(4.9)	ミガキ、黒色処理	ロクロナデ		Ⅳ区
14	土師器	碗	—	(5.4)	(2.7)	ミガキ、黒色処理	ナデ、底部回転糸切		Ⅰ区
15	土師器	碗	—	(6.9)	(2.0)	ミガキ、黒色処理	ロクロナデ、底部回転糸切、高台貼付		Ⅳ区
16	土師器	碗	—	—	(2.0)	ロクロナデ	ロクロナデ、墨書		Ⅲ区
17	灰軸陶器	碗	(11.0)	—	(2.3)	ロクロナデ、灰軸	ロクロナデ、灰軸		検出
18	灰軸陶器	碗	(14.8)	—	(2.3)	ロクロナデ、灰軸	ロクロナデ、灰軸		Ⅰ区
19	灰軸陶器	皿	(13.6)	—	(1.9)	ロクロナデ、灰軸	ロクロナデ、灰軸		Ⅲ区
20	灰軸陶器	皿	(13.2)	—	(1.7)	ロクロナデ、灰軸	ロクロナデ、灰軸		Ⅰ区
21	灰軸陶器	碗	—	(7.0)	(3.0)	ロクロナデ、灰軸	ロクロナデ、灰軸、高台貼付		検出
22	灰軸陶器	碗	(9.5)	—	(1.7)	ロクロナデ、灰軸	ロクロナデ、高台貼付		検出
23	須恵器	壺か	(20.8)	—	(1.6)	ロクロナデ	ロクロナデ		Ⅱ区
24	須恵器	甕	(16.0)	—	(1.7)	ロクロナデ、自然軸	ロクロナデ		検出
25	土師器	羽釜	(28.7)	—	(4.8)	ナデ	ナデ		検出
26	弥生土器	甕	(27.0)	—	(5.1)	ミガキ	ハケ、ヘラミガキ、口縁部割痕沈文		Ⅱ区、P12
27	弥生土器	高環	—	(11.0)	(9.7)	ハケメ、ナデ	ミガキ、赤彩		壺方
28	弥生土器	甕	(21.0)	—	(7.4)	ミガキ	帯襷高沈文、帯襷高沈文		壺方
29	縄文土器	深鉢	—	—	(4.5)	ナデ	縄文LR、縦線帯		Ⅳ区
30	縄文土器	深鉢	—	—	(3.3)	ナデ	沈線文、縄文LR		検出
31	鉄製品	角釘	(4.8)	(0.8)	(0.4)	重量6.4g 先端側欠損			Ⅱ区
32	鉄製品	角釘	(6.1)	(0.7)	(0.4)	重量5.2g 先端側欠損			Ⅱ区
33	鉄製品	角釘	9.8	0.7	0.5	重量10.3g			壺方
34	鉄製品	角釘	(9.4)	0.7	0.5	重量13.5g 先端側欠損			Ⅱ区

第4表 遺物観察表4

H10	種別	器種	法量 (cm)			成形・調整・文様等		出土位置・備考
			口径 (長)	底径 (幅)	器高 (厚・径)	内面	外面	
1	土師器	坏	(15.4)	7.0	4.0	ミガキ	ミガキ	I区
2	土師器	坏	11.4	2.9	4.7	ミガキ、黒色処理	ケズリ、ミガキ	No2
3	土師器	坏	15.0	10.6	5.1	ミガキ、黒色処理	ケズリ、ナデ	No3
4	土師器	坏	15.3	10.2	5.3	ミガキ、黒色処理	ケズリ、ナデ	No1
5	土師器	坏	(14.1)	12.8	4.6	ナデ、ミガキ	ケズリ、ミガキ	I区
6	土師器	坏	(14.4)	(12.7)	(4.7)	ナデ	ケズリ、ナデ	I区
7	土師器	坏	14.6	9.9	5.7	ミガキ、黒色処理	ケズリ、ミガキ	No8
8	土師器	坏	14.4	10.4	5.7	ミガキ、黒色処理	ケズリ、ミガキ	No4
9	土師器	鉢	(13.0)	—	(5.5)	ナデ、黒色処理	ナデ	I区
10	須恵器	蓋	(14.0)	—	(2.4)	ロクロナデ	ロクロナデ	I区
11	土師器	壺	9.2	2.4	12.2	ミガキ、黒色処理	ミガキ、黒色処理	No15
12	土師器	壺	(26.8)	—	(12.4)	ミガキ	ミガキ	I区
13	土師器	壺	—	8.0	(8.7)	ミガキ	ミガキ	カマド
14	土師器	甕	21.4	5.2	37.5	ナデ	ナデ、ケズリ	No10・16・17、カマド
15	土師器	甕	—	8.8	(28.8)	ハケ	ナデ、ケズリ	No9、I区
16	土師器	甕	—	5.6	(13.5)	ナデ、ハケメ	ミガキ	No5、I区
17	土師器	甌	—	(5.8)	(6.0)	ミガキ、多孔	ケズリ、ミガキ	I区
18	土師器	甌	(20.6)	7.1	25.2	ナデ	ケズリ	No13、I区
19	石製品	白玉	0.660	—	0.885	重量0.94g		I区
20	石製品	白玉	0.455	—	0.765	重量0.65g		I区
21	石製品	白玉	0.350	—	0.885	重量0.44g		I区
22	石製品	白玉	0.700	—	0.910	重量0.98g		I区
23	石製品	白玉	0.665	—	1.110	重量0.86g		II区
24	石製品	白玉	0.770	—	0.900	重量0.87g		I区
25	石製品	白玉	0.985	—	0.920	重量1.18g		I区
26	石製品	白玉	0.945	—	0.915	重量1.31g		I区
27	石製品	白玉	0.645	—	0.990	重量0.79g		I区
28	石製品	白玉	0.945	—	0.915	重量1.36g		I区
29	石製品	白玉	0.770	—	0.920	重量0.98g		I区
30	石製品	白玉	0.725	—	0.995	重量0.95g		I区
31	土製品	管玉	2.245	—	0.520	重量0.55g		II区
32	弥生土器	鉢	(13.3)	3.9	5.9	ミガキ、赤彩	ミガキ、赤彩	I区
33	弥生土器	鉢	(9.4)	3.2	4.1	ミガキ、指紋残る	ミガキ	検出
34	弥生土器	高坏	—	(6.6)	(5.5)	赤彩	ミガキ、赤彩	I区
35	弥生土器	高坏	—	—	(3.7)	ミガキ、赤彩	ミガキ、赤彩	I区
36	弥生土器	甕	(12.4)	—	(5.2)	ミガキ	櫛形文、櫛形文	堀方
37	弥生土器	蓋	5.3	—	(4.6)	ナデ	ミガキ	検出
38	弥生土器	蓋	(7.0)	—	(4.2)	ナデ	ハケ、ナデ	堀方
39	弥生土器	甌	(13.9)	5.4	10.5	ナデ、単孔	ナデ、ハケ状工具痕	I区
40	縄文土器	深鉢	—	—	(2.8)	ナデ	沈線、割目	II区
41	縄文土器	深鉢	—	—	(3.8)	ナデ	沈線、縄文	II区
42	縄文土器	深鉢	—	—	(5.9)	ナデ	沈線、縄文	II区
43	縄文土器	注口土器	—	—	(4.2)	ナデ	ナデ	II区
H11	種別	器種	法量 (cm)			成形・調整・文様等		出土位置・備考
			口径 (長)	底径 (幅)	器高 (厚)	内面	外面	
1	土師器	甕	(23.0)	—	(5.0)	ナデ	ナデ、ケズリ	
2	須恵器	高坏	—	—	(6.5)	ロクロナデ、自然釉	ロクロナデ、自然釉	
3	須恵器	甕	—	—	(5.4)	ロクロナデ	ロクロナデ、波状文	
4	須恵器	甕	—	—	(8.2)	ロクロナデ	タタキ	
5	土師器	甌	(21.0)	(6.2)	25.5	ケズリ、ミガキ	ケズリ、ミガキ	
H12	種別	器種	法量 (cm)			成形・調整・文様等		出土位置・備考
			口径 (長)	底径 (幅)	器高 (厚)	内面	外面	
1	須恵器	蓋	(16.2)	—	(2.0)	ロクロナデ	ロクロナデ	検出
2	須恵器	坏	(16.0)	(10.0)	4.0	ロクロナデ	ロクロナデ、底部ヘラ切	検出
3	土師器	坏	—	—	(3.0)	ナデ	ナデ、ケズリ	I区
4	土師器	鉢	11.7	1.3	9.9	ミガキ、黒色処理	ケズリ、ミガキ	I区
5	土師器	甕	(20.8)	—	(9.5)	ナデ、ミガキ	ナデ、ケズリ、ミガキ	II区、カマド

第5表 遺物観察表5

6	土師器	壺小	—	(3.6)	(4.4)	ミガキ、黒色地埋		Ⅱ区
7	土師器	甕	(23.7)	—	(17.7)	ナデ	ケズリ	Ⅰ・Ⅱ区
8	弥生土器	鉢	(26.6)	—	(3.2)	ミガキ、赤彩	ミガキ、赤彩	Ⅰ区
9	弥生土器	鉢	—	—	(5.1)	ミガキ、赤彩	ミガキ、赤彩	Ⅰ区
10	弥生土器	鉢	—	—	(2.5)	ミガキ、赤彩	ミガキ、赤彩	Ⅰ区
11	弥生土器	鉢	—	(6.0)	(1.9)	ミガキ、赤彩	赤彩	堀方
12	弥生土器	甕	(11.9)	—	(4.1)	ミガキ、赤彩	ミガキ、赤彩、櫛歯彫文	Ⅰ区
13	弥生土器	甕	(12.0)	—	(6.6)	ミガキ	櫛歯斜走文、櫛歯彫文	Ⅰ区
14	弥生土器	壺	—	—	(2.8)		斜走文、円形浮文	Ⅰ区
15	弥生土器	甕	—	(8.2)	(4.4)	ミガキ	ミガキ	Ⅰ区
16	弥生土器	甕	—	(6.0)	(5.5)	ミガキ	ミガキ	Ⅰ区
17	縄文土器	深鉢	—	—	(4.7)	ナデ	横位隆帯	堀方
18	縄文土器	深鉢	—	—	(3.4)		沈線文、縄文L字	Ⅰ区
19	縄文土器	深鉢	—	—	(3.0)		口縁部突起	Ⅰ区
H14	種別	器種	法量 (cm)			成形・調整・文様等		出土位置・備考
			口径 (長)	底径 (幅)	器高 (厚)	内面	外面	
1	弥生土器	鉢	(15.4)	5.5	6.3	ハラミガキ、赤彩	ハラミガキ、赤彩	Ⅰ区
2	弥生土器	鉢	(15.2)	4.7	6.4	ハケ、ハラミガキ、赤彩	ハラミガキ、赤彩	Ⅰ区
3	弥生土器	鉢	(12.0)	(4.8)	5.7	ハケ、ハラミガキ、赤彩	ハラミガキ、赤彩、口縁部穿孔2箇所	検出
4	弥生土器	鉢	(11.8)	(4.2)	3.8	ハラミガキ、赤彩	ハラミガキ、赤彩	Ⅰ区
5	弥生土器	鉢	(16.6)	—	(4.5)	ハラミガキ、赤彩	ハラミガキ、赤彩	Ⅰ区
6	弥生土器	鉢	(11.4)	—	(4.0)	ハラミガキ、赤彩	ハラミガキ、赤彩	Ⅰ区
7	弥生土器	鉢	(11.4)	—	(3.3)	ハラミガキ、赤彩	ハラミガキ、赤彩	Ⅰ区
8	弥生土器	鉢	—	5.0	(2.3)	ハラミガキ、赤彩	ハラミガキ、赤彩	検出
9	弥生土器	鉢	—	4.9	(4.2)	ハラミガキ、赤彩	ハラミガキ、赤彩	Ⅰ区
10	弥生土器	鉢	(13.7)	6.8	9.2	ハラナデ	ハケ、ハラケズリ	No6
11	弥生土器	鉢	(12.4)	(4.6)	(7.5)	ハラミガキ	ハケ、ハラナデ	Ⅰ区
12	弥生土器	高坏	(20.6)	—	(3.8)	ハラミガキ、赤彩	ハラミガキ、赤彩	Ⅰ区
13	弥生土器	高坏	(22.2)	—	(5.2)	ハラミガキ、赤彩	ハラミガキ、赤彩	Ⅰ区
14	弥生土器	高坏	(22.4)	—	(2.2)	ハラミガキ、赤彩	ハラミガキ、赤彩、口縁部突起	Ⅰ区
15	弥生土器	高坏	(24.0)	—	(1.6)	ハラミガキ、赤彩	ハラミガキ、赤彩、口縁部突起	Ⅰ区
16	弥生土器	高坏	(26.0)	—	(9.8)	ハラミガキ、赤彩	ハラミガキ、赤彩	検出
17	弥生土器	高坏	(28.0)	—	(4.4)	ハラミガキ、赤彩	ハラミガキ、赤彩	Ⅰ・Ⅱ区
18	弥生土器	高坏	—	15.3	(11.0)	ハケ	ハラミガキ、赤彩	Ⅰ・Ⅱ区
19	弥生土器	高坏	—	10.6	(8.4)	坏部：ナデ 脚部：ハケ、ナデ	ハラミガキ	No7
20	弥生土器	壺	(26.4)	—	(5.9)	ハラミガキ、赤彩	ハラミガキ、赤彩	Ⅰ区
21	弥生土器	壺	—	—	(12.9)		ハラ櫛斜走文、ハラミガキ、赤彩	No15
22	弥生土器	壺	(17.4)	—	(7.5)	ハラミガキ、赤彩	ハラ櫛斜走文、ハラミガキ、赤彩	No10
23	弥生土器	壺	(23.2)	—	(6.7)	ハラミガキ、赤彩	ハラミガキ、赤彩	Ⅰ区
24	弥生土器	壺	(24.2)	—	(9.1)	ハラミガキ	ハラミガキ	Ⅰ区
25	弥生土器	壺	(29.8)	—	(7.2)	ハラミガキ、赤彩	ハラミガキ、赤彩	Ⅰ区
26	弥生土器	壺	(30.2)	—	(6.0)	ハラミガキ、赤彩	ハラミガキ、赤彩	Ⅰ区
27	弥生土器	壺	(31.0)	—	(12.4)	ハラミガキ、赤彩	ハラミガキ、赤彩、沈線	Ⅱ区
28	弥生土器	甕	17.4	—	(22.4)	ハケ、ハラミガキ	櫛歯波状文、櫛歯彫文	Ⅰ区
29	弥生土器	甕	17.5	—	(21.5)	ハラミガキ	櫛歯波状文、櫛歯彫文	No8、Ⅰ区
30	弥生土器	甕	18.4	—	(16.2)	ハラミガキ	櫛歯波状文、櫛歯彫文、口唇部刻み	No18
31	弥生土器	甕	(13.0)	—	(8.6)	ハラミガキ	櫛歯波状文、櫛歯彫文	Ⅰ・Ⅱ区
32	弥生土器	甕	15.9	—	(10.9)	ハラミガキ	櫛歯波状文、櫛歯彫文	Ⅰ区
33	弥生土器	甕	17.6	—	(14.4)	ハラミガキ	櫛歯波状文、櫛歯彫文、口唇部刻み	No13・17・18
34	弥生土器	甕	(12.6)	—	(10.8)	ハラミガキ	櫛歯波状文、櫛歯彫文	Ⅰ区
35	弥生土器	甕	(17.4)	—	(9.0)	ハラミガキ	櫛歯波状文、櫛歯彫文	Ⅱ区
36	弥生土器	甕	(10.2)	—	(7.2)	ハラミガキ	櫛歯波状文、櫛歯横線文	Ⅰ区
37	弥生土器	甕	—	(6.2)	(9.6)	ハラミガキ	櫛歯波状文、ハラミガキ	Ⅰ区
38	弥生土器	甕	15.3	—	(11.6)	ハラミガキ	櫛歯斜走文、櫛歯彫文	No14
39	弥生土器	台付甕	12.9	—	(10.9)	ハラミガキ	櫛歯斜走文、櫛歯彫文	No16
40	弥生土器	甕	—	—	(3.2)	ハラミガキ	櫛歯波状文	Ⅰ区
41	弥生土器	甕	—	—	(3.1)	ハラミガキ	櫛歯波状文	H12 Ⅰ区
42	弥生土器	甕	—	—	(2.3)	ハラミガキ		Ⅰ区
43	弥生土器	台付甕	—	(8.0)	(4.8)	ハラナデ、ハラミガキ	ハラミガキ	Ⅱ区

第6表 遺物観察表6

44	弥生土器	台付甕	—	5.8	(4.8)	ヘラミガキ	ヘラミガキ		I 区	
45	弥生土器	台付甕	—	8.4	(8.0)	脚部 ヘラナデ 体部 ヘラミガキ	ヘラミガキ		No9	
46	弥生土器	甕か	—	(4.6)	(3.2)	ハケ	ヘラミガキ、赤彩		I 区	
47	弥生土器	甕	—	4.7	(4.5)	ハケ、ヘラミガキ	ヘラケズリ、ヘラミガキ		No11、I 区	
48	弥生土器	甕	—	6.6	(3.3)	ヘラミガキ	ヘラケズリ、ヘラミガキ		I 区	
49	弥生土器	甕	—	(6.0)	(2.9)	ヘラミガキ	ヘラミガキ		II 区	
50	弥生土器	甕	—	(6.4)	(2.0)	ヘラミガキ	ヘラミガキ		I 区	
51	弥生土器	甕	—	4.4	(2.8)	ヘラミガキ	ヘラミガキ		II 区	
52	弥生土器	甕	—	6.3	(3.1)	ナデ、ヘラミガキ	ヘラミガキ		I 区	
53	弥生土器	甕	—	(5.8)	(3.0)	ヘラミガキ	ヘラミガキ		検出	
54	弥生土器	甕	—	(7.0)	(2.5)	ヘラナデ	ハケ、ヘラケズリ		検出	
55	弥生土器	甕	—	(7.2)	(2.7)	ヘラミガキ	ヘラミガキ		I 区	
56	弥生土器	甕	—	5.2	(2.1)	ヘラナデ	ヘラケズリ、ヘラミガキ		I 区	
57	弥生土器	甕	—	13.8	(3.8)	内面剥落	ヘラミガキ		I 区	
58	弥生土器	甕	—	14.6	(3.4)	内面剥落	ヘラケズリ、ヘラミガキ		I 区	
59	弥生土器	甕	—	14.7	(4.8)	ヘラナデ	ハケ、ヘラミガキ		I 区	
60	弥生土器	蓋	—	—	(2.9)	ナデ 幅み径4.1cm	ナデ		II 区	
61	縄文土器	深鉢	—	—	(5.9)		沈線文、縄文		I 区	
62	鉄製品	刀子	11.1	5.2	0.5	重量12.6g			混入か	
63	鉄製品	鉄鏃か	(2.0)	(2.8)	(0.4)	重量2.9g 上・左側欠損				
64	石製品	勾玉	1.24	0.60	0.44	重量0.86g 翡翠				
H16	種別	器種	法量 (cm)			成形・調整・文様等		内面	外面	出土位置・備考
			口径 (長)	底径 (幅)	器高 (厚)					
	1	弥生土器	鉢	(17.2)	—	(4.0)	ミガキ、赤彩	ミガキ、赤彩		
	2	弥生土器	高坏	—	—	(13.5)	ミガキ、赤彩	ミガキ、赤彩		
	3	弥生土器	高坏	—	(17.3)	(15.9)	ヘラナデ	ミガキ、赤彩		
	4	弥生土器	高坏	—	(9.6)	(6.2)	ハケ	ナデ		
	5	弥生土器	高坏	—	(15.0)	(2.8)	ナデ	ナデ		
	6	弥生土器	壺	(20.0)	—	(4.2)	ミガキ、赤彩	ミガキ、赤彩		
	7	弥生土器	甕	(14.0)	—	(11.2)	ミガキ	櫛歯状文		
8	縄文土器	深鉢	—	—	(6.2)	ナデ	沈線文、縄文LR			
H17	種別	器種	法量 (cm)			成形・調整・文様等		内面	外面	出土位置・備考
			口径 (長)	底径 (幅)	器高 (厚)					
	1	弥生土器	蓋	(4.2)	—	(4.0)	ミガキ	ミガキ		
2	弥生土器	壺	—	—	(23.2)	ハケ、ミガキ	横位沈線、櫛歯斜老文			
H18	種別	器種	法量 (cm)			成形・調整・文様等		内面	外面	出土位置・備考
			口径 (長)	底径 (幅)	器高 (厚)					
	1	弥生土器	鉢	(13.3)	7.0	13.5	ヘラミガキ、赤彩	ヘラミガキ、赤彩、口径部穿孔2箇所		No3・4
	2	弥生土器	鉢	(7.1)	3.9	7.7	ナデ	ミガキ、赤彩		I・II 区
	3	弥生土器	鉢	—	4.9	(2.7)	ヘラミガキ、赤彩	ヘラミガキ、赤彩		No2
	4	弥生土器	鉢	(13.0)	—	(4.6)	ミガキ、赤彩	ミガキ、赤彩		I 区
	5	弥生土器	鉢	(13.6)	—	(5.4)	ミガキ	ミガキ		I 区
	6	弥生土器	鉢	—	—	(5.5)	ミガキ、赤彩	ミガキ、赤彩		II 区
	7	弥生土器	鉢	—	—	(4.7)	ミガキ、赤彩	ミガキ、赤彩		II 区
	8	弥生土器	甕	—	(4.6)	(1.8)	ミガキ	ミガキ		II 区
	9	弥生土器	高坏	(17.2)	—	(6.5)	ヘラミガキ、赤彩	ヘラミガキ、赤彩		No5
	10	弥生土器	高坏	(23.2)	—	(4.4)	ミガキ、赤彩	ミガキ、赤彩		II 区
	11	弥生土器	壺	—	—	(11.0)	ハケ	ナデ		II 区
	12	弥生土器	甕	21.2	6.7	28.1	ヘラミガキ	櫛歯状文、櫛歯状文、口径部刻み		No3
	13	弥生土器	甕	—	—	(4.8)	ミガキ、赤彩	ミガキ、赤彩、櫛歯状文		II 区
	14	弥生土器	壺	—	—	(6.6)	ミガキ、赤彩	ミガキ、赤彩、櫛歯状文		II 区
	15	弥生土器	甕	(22.0)	—	(6.1)	ハケ、ミガキ	櫛歯斜老文、口径部刻み		II 区
	16	弥生土器	甕	—	(5.0)	(2.3)	ミガキ	ミガキ		II 区
	17	弥生土器	甕	—	(5.6)	(4.8)	ヘラミガキ	櫛歯状文、ヘラミガキ		II 区
18	縄文土器	深鉢	—	—	(5.8)	ナデ、ミガキ	沈線文、縄文LR		I 区	
19	石製品	磨製石丸	4.0	2.1	0.3	重量2.9g			II 区	
20	鉄製品	剣か	(2.5)	(1.1)	(0.2)	重量1.43g 両側欠損			No1	

第7表 遺物観察表7

D2	種別	器種	法量 (cm)			成形・調整・文様等		出土位置・備考
			口径 (長)	底径 (幅)	器高 (厚)	内面	外面	
1	弥生土器	高坏	—	—	(7.5)	ナデ	ナデ	
2	弥生土器	甕	—	6.1	(7.0)	ナデ	ミガキ	
3	須恵器	甕	(17.2)	—	(3.6)	ロクロナデ	ロクロナデ	
4	土師器	甕	—	6.3	(3.1)	ナデ	ケズリ	
5	土師器	甕	15.0	—	(6.7)	ナデ	ナデ	
6	土師器	甕	(20.2)	—	(4.4)	ナデ	ナデ、ケズリ	
7	土師器	甕	(23.3)	—	(15.8)	ナデ	ナデ、ケズリ	
Pit	種別	器種	法量 (cm)			成形・調整・文様等		出土位置・備考
			口径 (長)	底径 (幅)	器高 (厚)	内面	外面	
P9-1	鉄製品	釘	(8.1)	1.1	0.5	重量 8.1g 両端欠損		
P12-2	土師器	坏	(16.0)	—	(11.4)	3.4 ロクロナデ	ロクロナデ	
P12-1	須恵器	坏	(12.8)	(6.2)	6.2	ロクロナデ	ロクロナデ、底部回転糸切	
P12-2	鉄製品	環状	2.4	(2.3)	0.6	重量 6.6g 厚さ 1mm 程度の板を折り返し環状とする		
P30-1	弥生土器	甕	(13.0)	—	(4.0)	ミガキ	柳捺斜走文、柳捺扇状文	
P30-2	弥生土器	甕	—	—	(2.5)	ミガキ	柳捺扇状文、柳捺波状文、円形浮文	
遺構外	種別	器種	法量 (cm)			成形・調整・文様等		出土位置・備考
			口径 (長)	底径 (幅)	器高 (厚)	内面	外面	
1	縄文土器	深鉢	—	—	(6.7)	ミガキ	ミガキ、沈線文、口縁部突起	I 6
2	縄文土器	深鉢	—	—	(5.5)	ミガキ	沈線文、穿孔1箇所	II 8
3	縄文土器	深鉢	—	—	(4.6)	ミガキ	沈線文	I 4 ~ 7
4	縄文土器	深鉢	—	—	(3.3)	ミガキ	ミガキ	I 7
5	縄文土器	鉢	—	—	(2.1)	ミガキ	沈線文	I 7
6	縄文土器	深鉢	—	—	(2.9)	ナデ	沈線文、円形刺突文	II 8
7	縄文土器	深鉢	—	—	(2.4)	ナデ	沈線文	II 11
8	縄文土器	深鉢	—	—	(2.3)	ナデ	沈線文	II 11
9	縄文土器	深鉢	—	(5.6)	(2.4)	ナデ	ミガキ、底部網代敷	I 12
10	弥生土器	鉢	(12.4)	—	(5.2)	ヘアミガキ	ヘアミガキ	II 13
11	弥生土器	高坏	—	—	(5.0)	ヘアミガキ、赤彩	ヘアミガキ、赤彩	II 8
12	弥生土器	甕	12.2	—	(8.1)	ナデ	柳捺斜走文、柳捺扇状文、口唇部刺突	試掘
13	弥生土器	甕	(13.3)	—	(7.9)	ミガキ	柳捺波状文	試掘
14	弥生土器	甕	(19.8)	—	(4.9)	ヘアミガキ	柳捺斜走文	I 11
15	弥生土器	甕	(13.0)	—	(2.6)	ミガキ、赤彩	ミガキ、赤彩	試掘
16	弥生土器	甕	—	—	(3.5)	ヘアミガキ	柳捺斜走文	IV 2
17	弥生土器	甕	—	—	(2.4)	ヘアミガキ	柳捺斜走文	II 11
18	弥生土器	甕	—	—	(7.7)	ヘアミガキ	柳捺斜走文、柳捺扇状文	IV 2
19	弥生土器	壺	—	—	(6.0)	ナデ	柳捺扇状文、円形浮文、赤彩	試掘
20	弥生土器	甕	—	5.6	(3.3)	ナデ	ミガキ	I 4 ~ 7Gr
21	弥生土器	甕	—	—	(5.4)	ハケ、ナデ	ハケ、ナデ	試掘
22	土師器	坏	(12.1)	5.3	4.0	ロクロナデ、ミガキカ	ロクロナデ、底部回転糸切	I 4 ~ 7Gr
23	土師器	坏	(14.0)	—	(3.2)	黒色処理、縮文	ロクロナデ	I 7
24	土師器	坏	—	—	(4.4)	黒色処理、縮文	ロクロナデ、墨書「万」	112
25	土師器	坏	—	—	(2.6)	ロクロナデ、黒色処理	ロクロナデ、墨書	II 10
26	須恵器	坏	(14.0)	(7.3)	3.9	ロクロナデ、火押痕	ロクロナデ、底部ヘアケズリ、火押痕	試掘
27	灰輪陶器	輪花瓶	(13.8)	(7.0)	2.7	ロクロナデ、灰軸	ロクロナデ、高台貼付、灰軸	IV 2
28	灰輪陶器	碗	(12.2)	—	(3.5)	ロクロナデ、灰軸	ロクロナデ、灰軸	II 10
29	灰輪陶器	皿	—	(7.2)	(1.7)	ロクロナデ、灰軸	ロクロナデ、高台貼付、灰軸	II 9
30	灰輪陶器	碗	—	—	(3.9)	ロクロナデ、灰軸	ロクロナデ、灰軸	II 9
31	弥生土器	蓋	(4.2)	—	(2.9)	ナデ	ナデ	II 8
32	土師器	甕	(13.8)	—	(5.6)	ナデ	ヘアケズリ	I 10
33	土師器	甕	(17.3)	—	(9.5)	ナデ、ケズリ	ナデ	I 4 ~ 7Gr
34	土師器	甕	(24.0)	—	(18.7)	ハケ	ナデ、ケズリ	試掘
35	土師器	羽釜	(26.0)	—	(9.7)	ナデ	ナデ	試掘
36	土師器	鍋	(24.8)	(24.0)	14.6	ナデ	ナデ	II 8
37	土師器	鍋	(24.6)	(21.2)	14.4	ナデ	ナデ	II 8
38	石製品	玉か	(8.10)	(9.80)	(1.54)	黒曜石		試掘

第 8 表 遺物観察表 8



調査区東側全景（北から）



調査区北側全景（東から）



H1 号住居址完掘状況（南から）



H2 号住居址完掘状況（東から）



H3 号住居址完掘状況（南から）



H4 号住居址完掘状況（南から）



H4 号住居址堀方完掘状況（南から）



H5 号住居址完掘状況（東から）



H6 号住居址完掘状況（西から）



H7 号住居址完掘状況（北西から）



H8 号住居址完掘状況（西から）



H9 号住居址完掘状況（南から）



H9 号住居址堀方完掘状況（南から）



H10 号住居址炭化物検出状況（南から）



H10 号住居址ピット内遺物（南から）



H10 号住居址完掘状況（東から）



H10 号住居址堀方完掘状況（東から）



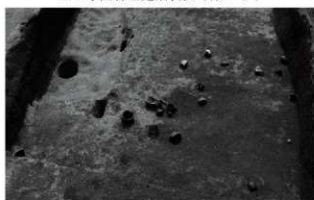
H11 号住居址完掘状況（南から）



H12 号住居址完掘状況（東から）



H13 号住居址完掘状況（北西から）



H14 号住居址完掘状況（東から）



H15 号住居址完掘状況（南から）



H16 号住居址完掘状況（東から）



H17 住居址完掘状況（東から）



H17 号内ビット粘土検出状況（南から）



H18 号住居址完掘状況（東から）



D2 号土坑完掘状況（東から）



D3 号土坑完掘状況（北から）

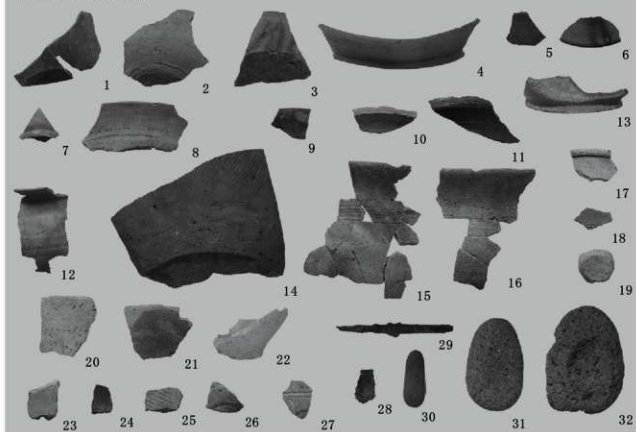


M1 号溝址完掘状況（南から）

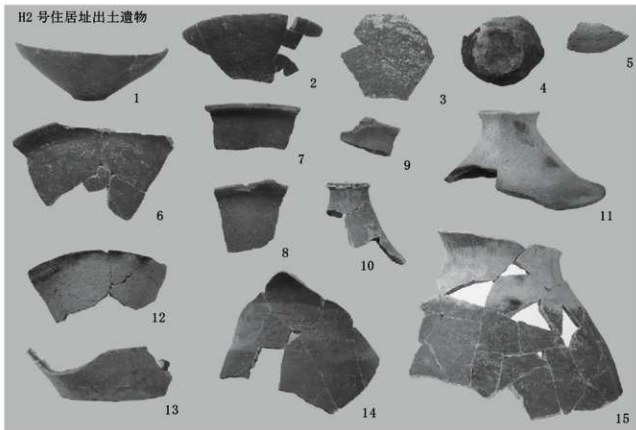


P9・11・12 礎石検出状況（南から）

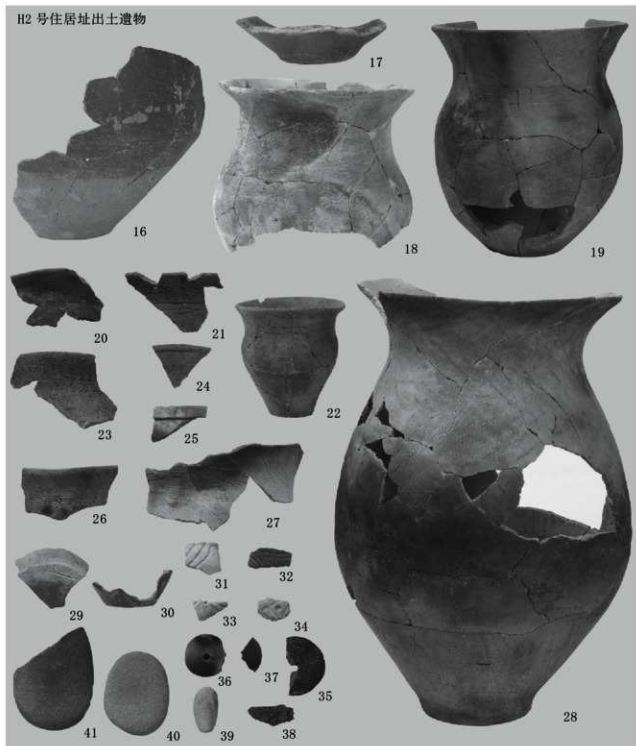
H1 号住居址出土遺物



H2 号住居址出土遺物



H2 号住居址出土遺物



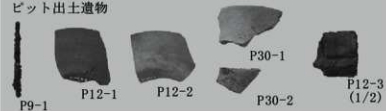
H5 号住居址
出土遺物



H6 号住居址
出土遺物



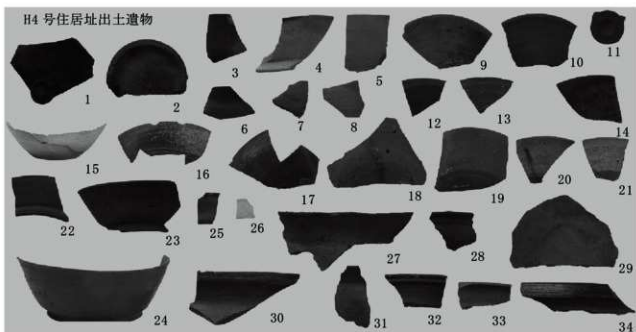
ビット出土遺物



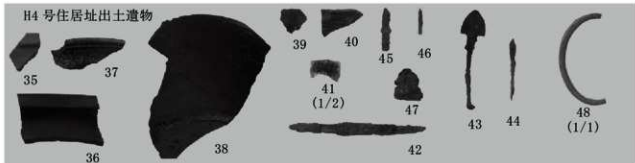
H3 号住居址出土遺物



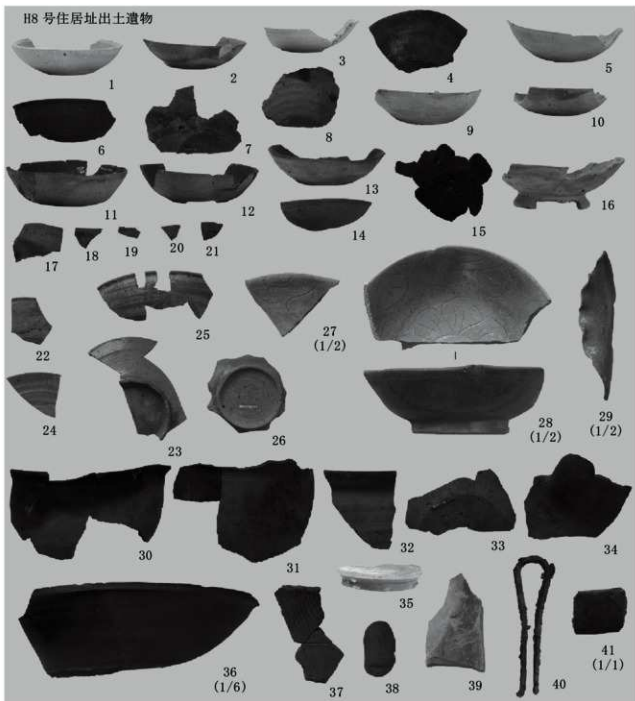
H4 号住居址出土遺物



H4 号住居址出土遺物



H8 号住居址出土遺物



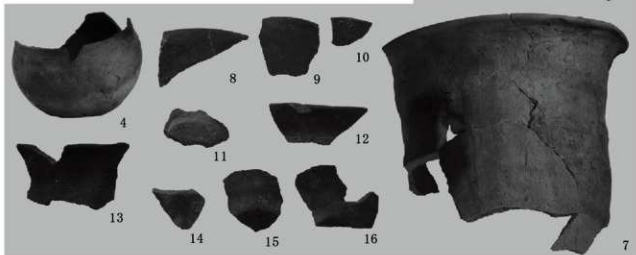
H10 号住居址出土遺物



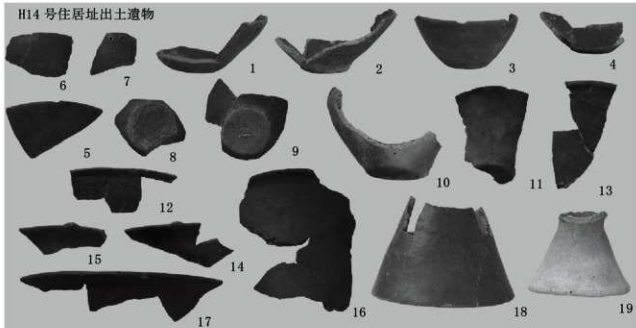
H11 号住居址出土遺物



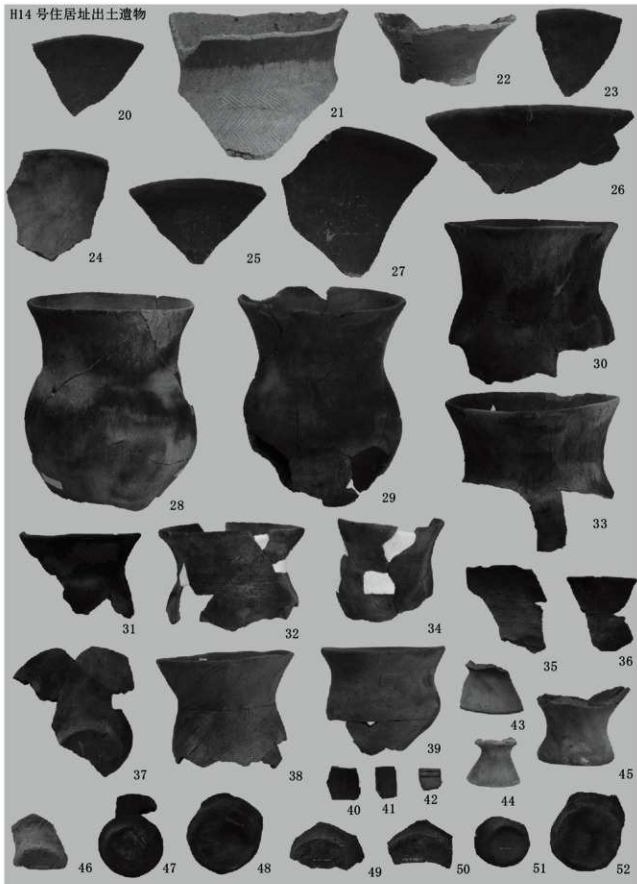
H12 号住居址出土遺物



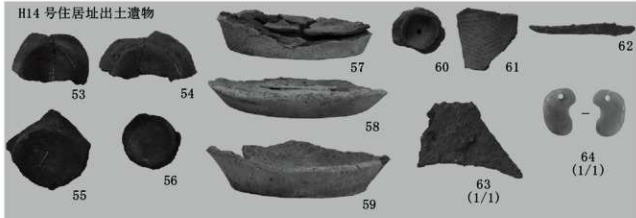
H14 号住居址出土遺物



H14 号住居址出土遺物



H14 号住居址出土遺物



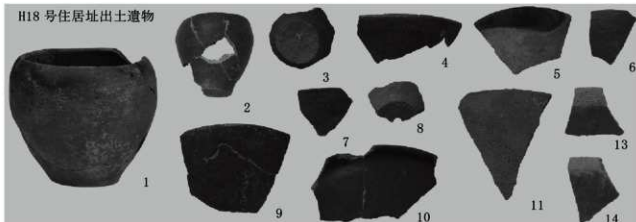
H16 号住居址出土遺物



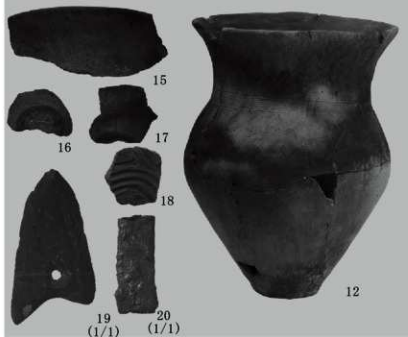
H17 号住居址出土遺物



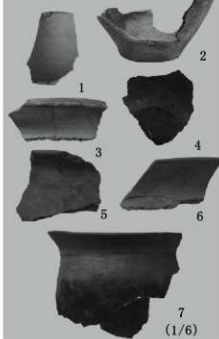
H18 号住居址出土遺物



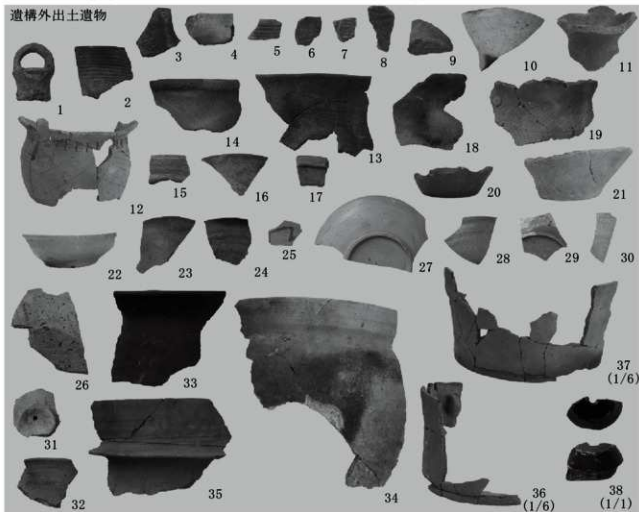
H18 号住居址出土遺物



D2 号土坑出土遺物



遺構外出土遺物



報告書抄録

ふりがな	にしちかついせきぐん にしちかついせきじゅうろく							
書名	西近津遺跡群 西近津遺跡XVI							
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第295集							
編著者名	久保 浩一郎							
編集機関	佐久市教育委員会 文化振興課							
所在地	長野県佐久市中込 2913 Tel:0267-63-5321 Fax:0267-63-5322							
発行年月日	令和5年(2023) 3月							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積(m ²)	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
にしちかついせきぐん にしちかついせきじゅうろく 西近津遺跡群 西近津遺跡XVI	さくしながとろ 佐久市長土呂 1792-1	20217	29	36° 16' 56"	138° 27' 21"	20210514 ～ 20210726	350.2	宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
西近津遺跡群 西近津遺跡XVI	集落址	弥生時代 古墳時代 奈良・平安時代	竪穴住居址 18軒 土坑 3基 溝 址 1条 ピット 60基	縄文土器、弥生土器、土師器、 須恵器、灰輪陶器、緑釉陶器、 石器、石製品、土製品、鉄製 品、銅製品				
要約	浅間山南麓の田切り台地上に展開する弥生時代後期から平安時代の集落跡の一部を調査した。弥生時代の遺物ではヒスイ製の勾玉、釧と指輪の破片と考えられる銅製品などが出土している。平安時代の遺物では緑釉陶器の輪花皿や耳皿が出土した。							

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第295集

西近津遺跡群 西近津遺跡XVI

令和5年(2023) 3月

編集・発行 佐久市教育委員会事務局

〒385-8501 長野県佐久市中込 3056

社会教育部 文化振興課文化財事務所

〒385-0051 長野県佐久市中込 2913

Tel:0267-63-5321

印刷所 キクハラインク株式会社